31-58
エトク×6
№430/XXIV.

三圓五十錢

世界周遊實記序

依光方成君。曾テ三圓五拾錢ヲ以テ周遊ヲ世界ニ試ム。果シテ其事ヲ遂ケタリ。依光氏ハ土佐國香美郡ニ生ル。家農タリ。小ニシテ凡ナラス。里ニアリ學ヲ爲スニ當リ。多數ノ下等社會ガ一部小數ノ權門ニ壓倒セラレ。敢テ憤然タル者アルコト能ハス。殆ト人間ニ同等ノ眞理アルヲ知ラサルカ如キノ狀ヲ熟察シ。之ヲ慨スルコト甚シ。以爲ラク吾レ今此ノ如キノ空氣ニ圍繞セラル。村夫子ニ就キ教ヲ受クルトモ。遂ニ陋俗ヲ擺脫シテ活世界

ニ縱横スルノ人ト爲ルニ益スルコト少シト。家ヲ脫シテ京坂ノ間ニ遊フ。轉シテ讃州ニ赴キ。高松ニ在リ學ヲ爲ス。傍ラ同地ノ民權家諸氏ト交ル。一且事アリ警察ノ爲メニ捕ラレ。檻倉ニ留置セラルヽコト殆ント一年間。感想百出。腦中ニ湧沸ス。殊ニ我東洋ノ官獨リ尊ニシテ。民甚タ卑シク。吏高ク揚リテ衆低ク屈スルノ習風。盤結シテ釋ケ難ク。政府ノ威獗然一國ヲ壓シ。農工商ノ力微々トシテ振ワズ。政府社會アリテ。而シテ人民社會アラサルカ如キヲ痛憤シ。擬意シテ曰此ノ如キノ組織ヲ一轉スルニ非スンハ。國家ノ隆盛何ヲ以テ期スルコトヲ

得ンヤト。尋テ又タ以爲ラク。吾レ實ニ斯身ヲ以テ斯社會ニ生ル。自ラ之ヲ改良スルノ任ニ當ラズシテ可ナランヤト。放免セラルヽノ後。復タ大坂ニ往キ。英學ヲ修メ更ニ西京同志社ニ入門ス。是レ何カ爲メニシテ然ル乎。方成子心竊ニ惟ラク。斯活世界ニ對シテ實地ニ改良ノ道ヲ施サント欲セハ。先ツ歐米各國ノ制度風俗。人情習慣。及ヒ其原因根蔕ヲ身接目覩シ來ルノ便ナルニ如カズ。而シテ之ヲ爲スニハ。大略英學ヲ修メサル可カラスト。蓋シ之レカ爲メニ備ント欲シタレハ也。良アリ一且鄉里ニ歸リ。親戚朋友ニ告グルニ長崎ニ行キ眼病ヲ治

スルトノ言ヲ以テシ。是レヨリ身ヲ潛メ外國船ニ投シ。其船僕トナリテ先ツ支那ニ赴キ。其各所ヲ經テ。印度地方ニ渉リ。其レヨリ米國ニ航行シ。更ニ歐州ニ歷遊シ。尙ホ澳州ヲ一過シテ四年ヲ閱テ歸國セリ。嗚呼其志ノ高遠ニシテ且ツ堅確ナル詢ニ愛尙スベキ也。今此一書ハ即チ依光氏三圓五拾錢ノ世界旅行記ナリ。方成氏年猶ホ少ニシテ身且貧。未タ其人ノ研磨シ來ル所。懷抱シ來ル所。蘊蓄シ來ル所ノ大策巨籌ヲ運轉實用スルニ遑アラス。世モ亦未タ此人ノ眞價ヲ知ルコト能ハズト雖モ。豈ニ煥乎タル光耀ノ自カラ其中ニ存スル勿ランヤ。予

レ此一書ヲ社會ニ紹介スルニ當リ。併セテ依光氏ノ性行及志謀ヲ表明スルコト大畧如斯。著者序ヲ問フノ時ニ丁リ。予傷ヲ頭部ニ受ケ。臥シテ蓐上ニ在リ。自ラ筆ヲ援ルヿ能ハス。口撰シ他ヲシテ代筆セシム。讀者先ツ此梗概ヲ領シ。看篇ノ勞ヲ取ラハ。其稗益スル所蓋シ淺少ナラサルベキ乎。

明治二十四年一月十日

衆議院議員　植木枝盛

三圓五十錢

世界周遊實記

依光君は土州高知の人なり余は君と相識ること舊し、余ゞ始めて高知に遊び再ひ讃州高松に遊ひたるの時君は高松に在り是れ余が君と相識るの始めなり爾來久濶十餘年を經て再び高知に於て君に邂逅し懷舊の情を話す別後君の踪跡如何んを問ふ君答へて曰く別後西京の同志社に入り學ふこと年あり奮然志を決して世界の旅行を思ひ立ち僅かゐ三圓五十錢を齎らし長崎より便船を得て先つ支那に渡航し漫遊を試み終

て印度より出て米國より至り歐洲を巡り濠洲を經て日本ゟ歸り其間四年を費したりと、余手を拍て曰く君の遊や實に奇なりて且壯なりと謂ふべし而して君と余と今日の邂逅も亦大奇にして且壯なりと謂ふべし余が境遇も亦君と相似るの何そ夫れ甚しきや余も亦別後歐州より漫遊し尋て支那より漫遊せり指を屈すれば君か支那天津に在りし時に余も亦た伊藤大使が李鴻章との支那談判を觀察せんが爲めに清佛の戰爭視察を棄て、上海を發し天津に赴きたるの時と僅かゟ前後ある而已君も貧遊を爲し余も亦貧遊を爲せり然れとも

其相異なる所に君に支那を先にして歐洲を後にし余に歐洲を先にして支那を後にせり、余に後藤板垣両君の如き大鯨の尾に附して萬里の波濤を航し君に單身獨泳雙艣を振ふて世界の海を渡りたり余が上海より天津に航し北京に入りたるの時に一錢を齎らさず同行朋友の助に賴て旅行し淹留したるも隨分君にも耻ちさる奇遊壯遊を試みたる事なれども君が僅かゟ三圓五十錢を齎らして鄕國を去り足跡五洲に遍きの奇且壯なるに至て余が企て及ばざる所なり日本より歐洲に遊學する青年者流多くに貴公子にして所謂る

千金之子也其學ふ所ゝ踏舞夜會の禮式あり其觀る所ゝ華麗驕奢の風俗あり或た勉强家も無きに非らされとも其學ふ所ゝ哲學法律の蘊奥なり其觀る所た家屋園庭の美景なり社會上層の物ゝ能く之を觀察し來るも社會下層の況ゝ能く之を鑒識し來るもの鮮し獨り能く君ゝ貧苦を忍ひ艱難に耐へ或ゝ召使となり或ゝ厨丁と爲りて久しく下層に屈服したれは細かに下情に通したり而して君ゝ又時々上層にも擡り出て、彼邦名流大家の門を敲き議論を上下して其得る所も少からぎ君か此遊や以て青年立志の摸範と爲すに足れり細かに其見聞せし所を記して之を公にせを補益少からざるに依り余た君に勸めて紀遊を編すべきを以てしたるに君た其事に從ひ遂に篇を成して余に序を嘱せられ且つ此書の題號は何とすべきやを問はる余ゝ答へて曰く其の實に違はぎ淡泊に三圓五拾錢世界周遊實記と題するに若くはなしと、余は玆に題號を妄撰し併せて蕪辞を述べ序と爲すと云爾

明治二十三年九月

東京芝松本街僑居　栗原亮一

三圓五十錢

世界周遊實記の卷首に書を

本書の著者依光氏一日來訪して予に示すに其稿本を以て一且一言を卷首に書せんことを請へる予曰く僕未た君を知らぎ又書中の事を知らぎ君の請に對して何の應答を爲さんことを知らざるあり氏曰く請ふ僕過去の經歷を語らん僕は高知縣に生る壯志を齎して東京に來り又京都に居ること數年去りて海外に遊べんと欲せしも貧窶京に居るすら尚難しとす多資を要するの外遊更に甚難き者あり然れ共古人言ふ志ある

者は事遂に成ると僕此言を固信して機會を待てり而して遂ゝ之を得たり其發する時嚢中僅かに三圓五十錢あるのみ鵬程萬里支那海を踐み印度洋を渡り米洲に入り又歐土を經て歸る書中掲ぐる所は其見聞錄なり予曰く壯哉一讀して應諾すると否とを決せん既にして一過讀了其記する所時に精細を欠くなきにあらざるもの丶如し然れども其各土實踐の迹見聞の事は往々地誌の掲げざる者に及べり氏曰く下等社會の生況を見んことを求めさりと、記事果して此言の如し、蓋し明治五年我大使の一行數十人の官吏より成り資を

海外に抛つ鉅萬其回覽記には各土の風を記することと詳なり爾後遊外の書年として世に出でざるあしと雖も大抵國貨を外に消するの結果紙上に現はるゝあり依光氏四圓に滿たざるの資を以て年を海外に送り歸るの後其見聞錄を公にす其詳若し假に他に遜ることとするも之を生産費用の相懸隔するに考ふれば彼大に此に遜る無らんや、聊所懷を記して氏の請に應ぜるの責を塞ぐ

明治廿三年九月十八日　　島田三郎

三圓五十錢　世界周遊實記目次

第壹篇　東洋諸洲

豫テ海外各國ノ下層社會ノ狀態ヲ探ラント欲スルノ意アリ明治十八年春之カ漫遊ノ途ニ就ク

崎陽港　解纜ノ初想　韓退之ヲ追敬ス

香港

香港全市ノ概況　支那人頑冥ノ狀態

支那人ハ孔子ヲ知ラス　支那下等勞役者ノ生活

英國人ノ東洋人ヲ籠絡スル一手段

支那人ノ商業上ニ於ケル志操　香港知事「ボーエン」氏ト談話ス

支那沿海巡遊ノ機會　始メテ西洋料理ノ法ヲ學ブ

福州

清佛戰爭ニ於テ佛軍ノ不信　福州住民ノ性情
福州人民ノ慷慨心　清國某有志家ト談話ス
ポタンボ嶋　太古
果シテ一舉シテ天津河口ヲ奪フベキヤ

天津
李中堂ノ政畧　廣東人ハ我ガ江州商人ニ等シ
當地ノ下等人民ハ皆家ヲ有シ妻子ヲ携フ
支那人ハ商業ニ長ス
天津地方ノ人民ハ貯蓄ノ精神ニ富ム唯タ教育ナキヲ憾ム

牛莊
牛莊ハ物價低廉ナリ　牛莊ノ遺利
日本人宜シク支那ノ遺利ニ着目セヨ

上海
在港ノ日本小商人　人死スル時ハ哭夫ヲ備フ
支那人ハ百ひろヲ嗜ム

我國人須シク支那ノ綿産ニ注意セハ利益多カラン
日本人亦支那ヨリ砂糖ノ輸出ヲ計ラハ利益多カラン、
日本ヨリ輸出シテ利益大ナルモノ多々アリ硫黄ノ如キ其一ナリ
清國近海ニ漂ヒ歐米ノ渡航ヲ得ザリシ時ノ失望落膽
西貢ニ渡ラントスル苦心　「キヤビン、ボーイ」ノ勞ニ服ス

支那ニ對スル予ガ看察ノ概評

西貢港
ミナム河流ノ要砦

蕃谷府
土人ノ生活　料ラス陸軍省ニ入ル
當地ノ僧侶　租稅徵收ノ暴威
暹羅國ノ獨リ介立スル所以　パルニオ土人ノ慓悍

ラングン港

當港ノ佛敎　當地ノ男女ハ八九歲ニシテ結婚ス
新嘉坡港　一習俗割禮
新嘉坡港繁盛ノ原因
當地ノ回々敎
印度諸洲ニ對スル私想
漸ク渡米ノ機會ヲ得タリ　其船名及ヒ船長
新嘉坡ヲ發ス
錫蘭
天竺ノ一名士ト談話ス（佛敎ヲ評シ又印度亡國ノ狀ヲ嘆ス）
孟買港
興亞策

第貳篇　亞米利加合衆國

船長ノ義氣予ヲ商船學校ニ入ラシメントス
喜望峰　セントヘレナ嶋
ブハマ嶋ヲ望ミ深ク感アリ　自由燈
六月十日ニユーヨーク港ニ着ス
中央公園　動物園
大橋　商船學校
大學校其他諸學校　新聞雜誌
宗敎ニ三大種アリ　敎會ニ五種アリ
貿易　自ラ某紳士ノ料理人トナル
勞働社會ノ狀態幷ニ其勢力　政治思想ノ發達
米國青年輩ノ精神ト學業
チカゴー農學校ニ入學セシメラレントス
予ト予カ當時ノ主人ニ於ケル關係
ニユーヨーク府知事「ヒール」氏トノ談話

我國ノ條約改正ニ對スル締盟方法
東洋人民ノ自由ヲ享受スルニ當リ政府ノ注意ト人民ノ覺悟
米國上院議員「ヒスコック」氏ノ米國政治上ノ狀態ニ於ケル談話
同氏ノ米國政黨ニ於ケル談話
エール大學總理「ヅハイトナモシー」氏ノ教育上ニ於ケル意見
米國婚姻ノ狀態　紳士「ヂョンロー」氏ノ死
同氏生前ノ經營　下等勞働社會ノ生活
米國紳士紳商ノ私行、內情　同盟罷工
合衆國聲名ノ因リテ發スル原因

第三篇　歐洲列國

白耳義國
二月十日米國ヲ發ス　ワイト嶋ヲ望ム
白耳義國アンバス港　アンバス港市街ノ概況
「ツライトツク」ヲ見テ我カ横濱幷ニ神戸ノ築港事業ニ感アリ
美術館　日本陶器ノ貿易
有名ナルウチトルロー古戰場ニ遊フ
政治思想
白耳義國獨立ノ源因ヲ論ス
佛國
佛國ニ入リハートバ府ニ在留ス　佛國ノ農工業
府內ノ景況　政体
一個ノ花氈製造七八年ヲ費ス　佛國宗教ノ弊害
宗教　教育
娼妓
佛國自由黨總理「クレマンソー」氏ト談話ス

日本將來ノ方針如何トノ問ニ對スル意見第一、第二、第三、
內地改良ト外交政略ト孰レカ先ズヘキ
佛國勞働社會ノ有樣
ルーエン大學教授「エムジユリアー」氏トノ對話
「ローエン」氏ト兵制ヲ談ス
佛國ノ形勢ヲ論ス

英國

英國ニ渡ル
「セントポール」寺院ニ遊ブ
「ハイデンハム」ニ遊ヒ水晶宮ヲ見ル
英國博物館ニ遊フ
テームス河底ノ隧道
ロンドン女學校
英國歲入
ロンドン府都ノ概況
國會議事堂
同館藏書「マグナカーター」
龍動大學校
宗教及政体
國民ノ性質
製產品
鐵道
外國ノ舞踏ニツキ一言ス
青年會
下等社會ノ結婚風儀
女權
名士「ブライト」氏ト談話ス
東洋人民ニ天賦ノ自由ヲ理解セシムル最便ノ方法如何
「グラツトストン氏ヲ訪フ」
內閣ハ政黨外ニ超然タルヲ得ルヤ
政治家ハ輿論ニ隨フベキモノニアラズ輿論ヲ作爲セザルベカラス
英國社會見聞ノ大要
外國貿易
勞働社會ノ有樣
政治思想
結婚ノ方法
政黨ノ狀態
娼妓
獨逸ハムボールツニ到ル
堡蘭土ニ至ル

月次

明治廿二年三月朔日郷國土佐ニ歸ル

如何ニシテ我國今日ノ地位ヲ高ムベキヤ

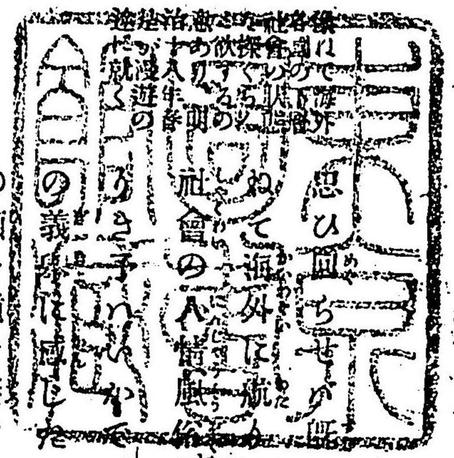
三圓五十錢 世界周遊實記目次畢

三圓五十錢

世界周遊實記

世界旅行者 依光方成著

第一篇 東洋諸洲



思ひ回ちせば既に六年の以前となりぬ、明治十八年の春なりき、予い豫て海外に航し歐米各國に於ける社會下層の實況を觀察し下等勞役幷に其生活の實狀を探驗せんと欲するの情甚だ切なるものにあらずといへ、我が邦人の海外に航するもの頻々踵を接するの有樣あるも彼等いみな學術研究の爲めにあらざれば、制度取調の爲に外あらず、彼等が企つる漫遊い只彼社會の上層を

見渡し、彼土外面に於ける豪奢の風、華裝の樣を見聞するに止り、未だ何人も彼土の下等勞役社會に於ける狀態を歴探し、裏面的風俗の笑ふべく、悲しむべく、哀むべく、怒るべく、泣くべく、嘲るべく、罵るべきの事實を我が同胞に報道したるものあるを聞かず、予不敏と雖も、希くハ奮て之か歴探を遂げ、彼土、紅塵万丈の裡に隱秘せる下層の事實を看破して之を我國文野の現況に比らべ、聊か我か國民浮華の熱情を和らげ、我が社會の耳目を覺洗せんと期したりしかバ、一日知れる某伯爵の門を訪ふ、其志意を陳べたりしに、伯爵ハ大に予が意を贊揚し、其壯遊を稱せらる、是に於て予ハ愈々志を決し、僅々の金圓を懷にし、蹶然窃に家を脱し、斷腸の愛戀を後にのこして飄然、神戸をさして急ぎたり、予ハ同地に至るや何我が貿易の情況幷に人民の氣風を熟察し置かばやと欲し數日間こゝに足をとゞめ、夫れより、長崎行の滊船某丸に搭じたり、折りしも

蹶然家を脱す

洶上風暴く波高く數日を經て漸く長崎に着したれバ、直ちに上陸して當時の長崎縣知事石田英吉氏を訪ひ予が外遊の目的及び予が身上の事情を告げしに、氏も亦手を拍て予が志を贊賞せられたりしかバ予ハ更に一層の勇みと勵みとを得たり、然れども此時不幸にして直ちに出帆する便船の助けを得ざりしを以て又空しく數日をこゝに送りたり

長崎港の感

き、

一日徒然の余り、市街を散歩し、昔豊臣秀吉公が鑄造せし巨大の砲丸を目擊し、當時我か日本の兵器の明人を恐怖せしめたる一斑を察し、轉た大閣の雄圖に感心しぬ、

市街を見物し、紳商を訪問し、以て貿易上の談論を試みつゝありし間に、覺ゑず數日を經過したり、時しも適々米國商船の香港に向つて解纜する由の報を得たり、仍て直ちに該船に到り船長に面會を求め予を香港

香港行の同船を得たり

に伴ひ行かんことを請ひたりしに、船長ハ少時らく沈吟して後ち言を發して曰く、香港に伴ふハ易し、されども彼に渡らんか、必らず非常の苦痛、困難、子の身を纏ひ來らん、子尙ほ之を辞せざるか、と、予ハ直ちに、予ハ一個の貧書生にして洞外に渡航せんと欲す百難千艱何ぞ予の厭ふ處あらんや乞ふ予が微志を憐み、予の依頼を諾せよと、應へしかバ船長ハ莞爾として、左程の決心あらバ兎も角も我船に來りて勞役を採れよ、予ハ子を伴ハんと告げ、予が請を諾せしかバ予ハ欣喜措く所を知らず、即時旅亭に歸り。匆々行李を整へ往て該船に搭したり、

解纜の初想

夕陽既に西に沈み、崎陽在寺暮鐘の聲遠く無常を報ずるの頃船長か一聲の號令と共に船ハ愈々纜を解き銕輪波濤を蹴て港を出でぬ、此時既に、予か胸間ハ勃々たる勇氣を以て滿たされ、揚々たる壯快の情滿面に溢る、多年の素志今や其歩を發き、其望みを達するを得たるかと思ひしかバ覺ゑず、壯絶の聲戛然として舌端に上りたりき、予ハ自ら這の好運の首途を祝し、前途の渺茫荒涼たる思ひを忘れいさみて甲板の上に、突立ちつゝ海球第一の落日を目送り、波上の新月我を迎ふるを見んと思ひ首を回らして遙に故郷を望みたりし、眸中に横ハる崎陽の港、淡墨杳靄の間に一點煌々たる新點の燈明を眺めてハ今まて旺勃たりし豪

想郷の餘念

想も次第に想郷の念に打消され「我家」なる一種の感、靈脈に徹したり、予ハ先きに故郷を出立せる時予ハ唯だ本心に期したる大業を成就せんと思ひたる爲め之れか前途の支障となり妨碍となる事情の發生を恐れ、愛着の爲め、戀慕の爲め折角の企圖を遷延せしむる如き事實に遭遇するあらんを患ひ、出立後の今迄一片の報をも父母に與へず、親戚にも告げず、特に之を知己朋友に告げざりしことの志慮も、今や顧みれバ、余りの無情と遠慮に過ぎたるを悔ゆるの材料となれり、父母ハ幾何なる

暗涙を結びてか兒が他出を憂ひつらん、我が隣傍の知人いかある言葉を用てか予の不在をいぶかりつわらん、予今萬里天涯の孤夫とあれり、予正さに絲裁ちたる紙鳶の如し、噫、予何の日か健かある父母か笑顔を見、親密ある舊友の手を再ひ握ることを得べきか、噫、予何の地に骨を埋むるも恨みおしといへども予今一朝北邙の烟と消へ去らば、又何人か今日この羈旅に在るを告ぐるものわらん、二十余年來予が過去の歴史と密接の關係を有する恩愛の日本國山光水色い何の日か再ひ予か瞳孔に映すべきか、と是を思ひ、彼を想へば、勇圖豪畫の氣象い何處にか打ち消へて苦愁憂界の身と變じ、紅みがゝれる夕霞も何にとおく我を吊ふごとく、衣を拂ふ涼風も常に代いりて千感萬情を浮べ動かす媒たるの心地し、まさしく、予い予にてあらざるものゝ如くありき、

然れども、進み行く船の止むべきに非ず、隱約ある五嶋の影も消へ、東に眺めし種ヶ嶋も水天髣髴の間に沒し、遂に支那に近接し西に方りて福州、厦門、台灣を望みつゝ進み行きたる其の時い予いすでに、女々しき心の漸く打とけて、彼の中華に跨る支那内地の探情に心を勇めけり、予い元少しく英學を修めたりしも、水夫社會の會話に至りてい殆んと通せざるを以て、日々數時間其無作法なるを哂笑されつゝ、「デッキ、ボーイ」の勞役に從事し其の餘い只だ書を讀みつゝ自らを慰さむるの外あらざりき、

津退之を追敬す

船い厦門を過て進路を西に轉じ仙頭を北に眺め森茫たる碧海を南に望みつゝ駛せ行けり、時しも適々感する所ありき、即ち昔し夫の韓退之か佛骨の表を上り、奉佛の害を痛論して潮州に遠謫せられし時に當り、鯨魚の人民を害する甚しきを聞き自ら一文を草して海中に投せしに、

鰐魚の害忽ちにして止れりと、こゝを以て今に至るまで當地の民退之を慕ふこと恰も赤子の慈母に於けるが如しと、予ゝ之を聞きて追敬の念に堪へず、坐ろに教化恩德の人を化するの深きを感じぬ、既にして船ゝ香港に達せり、

香港

香港ゝ周圍僅かに七里の一小嶋嶼にして市街ゝ平坦ならず、石室高樓すべて、阪上に層々羅列す、此地一小嶋嶼なるをもて素より物産あらざと雖も、英領に屬する丈けありて實に東洋第一の交市場として數十艘の滊船帆船常に艤集せり、予が船こゝに投錨するや予ゝ直ちに上陸して市街を通觀するに家屋宏麗にして高く天を摩するの觀あるもの少からず、其坂ある市街の半腹に公園地ありて草木繁茂奇葩美瓣艶を競ひ姿を飾る、園内に植物園の設あり、貴賤の老若男女一にこゝに來りて

香港全市の概況

植物園及び書籍館

徘徊逍遙す、又植物園の外に博物館あり、また書籍館の設あり、博物館にゝ諸方よりの有志者の寄附にかゝる陳列品ありて聊か博物學研究の助けとなすに足るものゝ如し、

書籍館は數千部の卷冊を藏し、人民閲讀の自由に供す、日に來り入るもの二三百人の上に出づと云ふ、

予ゝ當地に來りて始めて支那土人、フヒリッピン諸嶋生民、アラビヤ人等、諸異土の民人を見たり、然れども當地の軍隊ゝ總べて英人を以て編制せられ、常備兵一千五百ありと聞けり、吁、嗟東洋の要港英兵の占據守衛するところとなる、豈慨すべきにあらずや、此地造船所二ヶ所あり、聞く當時の香港知事ポチエン氏ゝ自由改進の主義を唱道する人なりと、然れども氏ゝ又權謀術數家の聞へある人にして、當地に於て支那人を虐待するの實に甚しきものあり、されども彼等支那人ゝ猛悪なる

へあるか、將た卑屈あるのゆへあるか一人として其抑壓に對して非難攻擊するものなく、唯命是れ從ふの有樣あり、予ハ當港に來るまでハ一に支那國を以て道義普及の國あるべしと思意したり、是れ予輩一己の思意のみならず、日本人の多くハ此の考を有てるものならん、彼の孔夫子と云ひ、孟子と云ひ、其他幾多無數の儒道家、教學者頻々時代を逐ふて輩出し、我が國の風教を維持する基本たる人倫五常の道、遵尊下和の理も實に彼れ支那より傳來せしものあるを思へバあり、然れども予ハ當港に渡り、其人民に接するに及び、豫想外に道義紊亂し、風教頽弊し、人心腐敗を極むるに一驚せり、下等社會のみならず、中等以下の支那人に向ひて孟子の名を話し、孔子の二字を書して示すも彼等ハ一に其何人なるやを知らざるなり、彼等の知れる所ハ唯だ關羽の名のみ、彼等の走りて求むる所ハ唯「金」の一字のみ、彼等ハ權利の何たるを了せず、義務の如何を知らず、特に自由の何物たるを知らざるなり、彼等ハ常に「モーピン、カイター」「ヤオピン、カイファン」を口にし、無髮者ハ野蠻人なり、有髮者是開明と稱せるも是れたゝ習慣の末口に上るあるのみ、其理の根據を知らず、其志操の如何を辨せざるものあり、是に於て予ハ西洋人の支那人を茂視し、奴隷視するの無法あらぬを了したり、中等社會に於ても唯聊か衣服と言語と、禮讓との三に於て稍差等を見ると雖も同じく「金」の一字に向つて卑屈あるハ敢て異ることなし、西哲云へるあり、人民政府の下に在りて政治の自由なくんバ則ち人にして人に非ずと、彼れ支那人の如きハ即ち人にして人に非ざるものと謂ふも敢て酷あらざるべし、

支那人頑民の狀態

支那人は孔子を知らず

支那下等勞役者の生活

支那下等勞役者一日の給金ハ凡そ拾仙にして其内八仙ハ亞片に費やし、殘る二仙にて粥をすゝり生計と爲す、此輩ハ家も無く、妻子もなく、財産も無く、一身の外無一物にして常に商家の門前に眠食し、西洋人に向

英國人の東洋人を籠絡せる一手段

ひて亡「ステッキ」に打伏らるゝも、面に唾さるゝも敢て之に抗し、之に爭ふものなく、殆んど犬豕と擇む處なし、人間社會にして斯くの如き人民の生存するを思へば轉た可憐に堪へざりき、

此地縣會ありと雖も議員は皆英人にして支那人亡智識財産を有するも決して之に參與する能亡ず、而して支那人彼れ自身も亦政權に參與せんと欲するもの有る無し、前に記せる如く、香港亡英政府の所轄なりと雖も、土地に物産とて亡あらされば、衣食什器は總て之を他方より仰かざるべからず、こゝを以て若し斯くの如き地にして海關稅を徵收せば東西の商人此地に貿易を營むものなきに至らん如かず關稅を廢し諸國を懷け以て諸物産を輸入せしめ商人等に利益を與へんにと、是れ英人の東洋人を籠絡せる一手段なりと、然れども此の巧なる手段のあるありと此地今日の繁盛を特續し得るものたるを思い亡予が國民等宜しく此流の人たらんを希望せずんい亡あるべからざ、若し此地をして永く支那人の手に領せしめんか、豈焉んぞ今日あるを得ん、かゝる生産に稀有なる土地を變じて亞細亞第一の交市場なるの地位に進ましめたるもの實に手段の巧妙なるに驚くと同時に、我か北海道たり、樺太たり、琉球たるもの二十餘年の今日未だ開拓の功を奏せざるを思ひ轉た撫然たること久しかりき、

支那人の商業上に於ける志操

支那人亡概ね女子を養育するを好み男子を喜亡ず、是れ女子成長して幸ひに容色優れたるものなれば五十圓乃至二千圓に賣却するを得、又其嬰兒と雖も五圓以上に賣ることを得るも男子に至りて亡一切金儲にあらざるを以てなり、

商業上に於て亡、支那人亡極めて狡猾にして其小智に長ずること實に惡むべきの樣ありと雖も、彼等相互に資本を合せ、相協同して結社を奠

當港知事ポーエン氏と談話す

し、而して其利益を分配することの克く平等にして、一點の私を致さゝる如きに至りてゝ之を我が國商人社會の互に猜疑を狹み、利益の配當に至りて常に苦情の斷へざる樣に比するゝ大に我に優るものあり、予ゝ彼の地にありて種々の勞役に從事し務めて彼が人情風俗を穿つべきことに着目しつゝありしが、一日某氏の紹介を得て當港知事ポーエン氏を訪ひ、東洋人民に自由を與ふるの可否に就て氏の意見を叩きたりしに、氏ゝコリアン、チャイニース、チャパンの三ッに區別して曰く、予ゝチャパン(日本)の事情に至りてゝ未だ詳細を知らざるを以て容易に喙を容れずと云へどもチャイニース(支那人)の如きに至りてゝ實に自由の何物たるを知れるもの甚だ稀にして、假令今日彼等に參政の自由を與へんとするも彼等ゝ之を好まざるあり、今麥田に於て既に麥種の發芽するあらゞ予ゝ厭まて其種子の發生を圖り、其麥の成熟を希ふ

支那沿海巡遊の機會

と雖も、如何にせん種子なき麥田に如何なる耕耘を施すも、是れ所謂徒勞たるに過ぎず、チャイニースの如きに至りてゝ自由の種を胚胎せず、又權利の發芽なし故に予ゝ之を與へざるに如かずと思考す、と曰へり、蓋し氏の權謀家たる此の一言に於てトするを得ん、氏ゝ壓制政治の抗擊家にして而して自ら壓制主義を實行せり、是れ豈に權謀家に非ずして何ぞや、然れども權謀家たるもの世に少しとせず、我が國民たるも心して、彼等權謀家の甘言に感着せらるゝなからんことを、

予の此地に留まる既に十數日を過せども未だ歐州、若しくゞ米國ゝ航するの船便を得る能ゝゞ、心窃かに之を憂ひ怏々として樂まず、ありしが、或る日、偶々洋人某なるもの予がもとに訪ひ來りて清國近海に航するの意あるやを以てせり、予ゝ若し旅費のあらしめゞ福州、天津より牛莊に渡航せんものをとの思ひ切なるも只囊中の空しき奈何ともする

あたゝはざるの折柄ありしかゞ渡りに舟の心地せられ、前後の思慮なく、速時予ゝ今回歐米に渡航の目的を以て當地に來りしも未だ其機會を得ず、足下果して予を伴ひ得るを得ゞ予は孰れの地に遊ぶも敢て辭せじと答へたりき、洋人ゝ予が答を聞くや、莞爾として微笑して倘曰へり、予ゝ米國の商船長あり、予若し西洋料理の法を傳ふるを得ゞ予が船に來れと、予ゝ此の言を聞くや、默然として容易之か答を發せざりき、是れ實に予ゝ日本の割烹すら之を爲ざたることなし、さるを況んや味ひ熟れざる西洋料理の法をやと心之を憂ひたれゞあり、然れども船長ゝ予の返答に困却せるを見て言を和げて、子西洋料理の法を知らざるものゝ如し、されども子の果して航行せんことを願ひ、今より勉めて其法を習はんと思ゝゝ明日予が船に來るべしと、告げけれゞ是に於て予ゝ奮然意を決し勉勵して、其役に服せんことを答へ、相約して別れたり、翌日

始めて西洋料理の法を學ぶ

予ゝ行李を整へ該船に到り玄に、船長自ら出で來りて予を迎へて曰へり、近來清佛開戰以來清國の近海を航するを好まざるもの頗る多し、然るに子ゝ獨り之を熱望し單身我が船に投するは予の大に感喜する處ありと、談話數時にして始めて其職に就けり、然れども予ゝ固より割烹調理の法を知らざるものゝあれゞ庖丁を採るも自在あらず、器皿を持つも之を扱ふ要を知らず、唯割烹室の中に茫然として停立し居たり、時に船長の妻來りて予が爲めに一書を示せり、受けて之を見れゞ則ち西洋料理法の口授書なりけれゞ予ゝ且つ喜ひ且つ讀み、時々其作爲を試み、漸くにして一餐を調し得始めて之を供するを得たり、予ゝ此時大膽にも決心したり、若し彼等予か料理の不作法を嘲る如きあらゝ予ゝ再び此職を執らすと、然れども船長ゝ其調理法に適せすして佳味を失したるを咎めず反つて之を賞し予を勵ますものゝ如くありき、此日香港を

發し、福建省、福州に向つて航せり、數日にして福州に達す、

福州

福州ハ閩川に瀕し、清國十八省中の一市府たり、港口に強固なる堡砦を設け以つて之を守る、予か當地に航せし時ハ正さに清佛戰爭の役殷なるの日なりしかハ、遇ふものハ皆其戰況を談せざるものなかりき、此時聞ける事に、開戰の前に當り今日ハ佛艦の來襲あらん、明日ハ佛兵の來攻するあるべしと、巷說紛々人心恟々たる有樣なりし際佛艦數隻忽然として福州港に來り翌日を以て開戰せんことを求め清將亦之れを諾せり、然るに佛將此約に負き即日午後不意に發して清艦を襲へり、此時既に前約あるを以て清將未だ備を爲さず匆忙狼狽戰ふあたハず僅に二時間を出ず清艦十一隻砲擊せられて海に沒せしのみならず港口の堡砦も亦其機を失して彼を擊つ能ハざ且、福建省總督も亦到底抗すべ

清佛戰爭の一に於て佛軍の不信、

からざるを知り十余万兩の金を懷中にして逃走し遂に清國の全敗となりたりと機變と戰國の常なりと雖も若し氣慨あるものの之を聞かハ誰れか佛軍の不信を憎まざるものあらんや、當時の狀況に於て清國の備へ堅からざるを見ると同時に歐州諸國の義に薄ふして禮なきを知るの一端に供するを得ん、

福州ハ人口頗る多きも市街ハ稍や狹隘にして又甚た不潔なり、當地にハ良材に富めるを以て先年船政局の設置あり、商船軍艦を頗多く製造せり、重なる物產ハ紅茶、絹、材木、稻穀等にして、穀、材木は天津及ひ上海に運搬し、紅茶及び繭茶絹等の如きハ歐米に輸出す、然れとも外國に輸出するものハ支那人の手よりするにあらずして總て居留外國人の手を經るものなり、

福州住民の性情

當地の下等勞働者は大抵香港と大同小異にして、夫の亞片に賃金を費

し、食物衣服等に至りては殆んど頓着せざるものゝ如し、亦妻子を携ふるもの甚だ稀なり、是を以て下等社會の者は他人の財物を窃取するを怪しまず亦發覺するも毫も耻つるの色なく、其教育の行はれず廉耻の何ものたるを知らざるは此の社會否清國の爲めに惜しまざるを得ざるなり

特に此の地の人心は一般の商業の道に暗く中等以下に至りては文字を解するもの甚だ尠く、又一般他の地方と等しく、孔子の何人たるを知らず、彼の文天祥の名を告げ、房玄齡、杜如晦等諸名士の名を書し與ふも一も彼等の解せるものなし、唯少しく字を解するものゝ好んで三國誌若くは水許傳を誦讀し而して其心亦是等の書に支配さる然れども熟つら考ふるに、當地近邊の人民は一般に香港地方在住の人心に比して意氣活潑なるものゝ如き者あり、彼等慨ある人民は殆んど我國に於ける士族の如きものに等しかるべきか、是れ一に西洋人に交通するの渉きにより、自ら高潔なる士風を離脱せざるものあるべし而して彼等の斯の氣慨を具ふる所以の一因を南宗の遺裔、其末流なるの故に歸するも亦不可なかるべし、是を以て清帝は元滿州人にして中華の人にあらざるの故を以て彼等は國王及び北京政府を尊敬するの心なく語次常に不平の意を寓せり、是れ子輩親しく彼等の談話に就きて徵せし處あり、左れば時として子輩をして他日南部の人民にして結合一致大ひに勢力を得るの曉には北京政府を轉覆せんと欲するものあるべしと思はしめたりき、之を要するに彼等は殆んど佛國ナポレオン黨の如し、只子輩をして憾みとせしめたるは教育の布及せざるを以て權利の奈如を知らず、定理に從ふ能はざるの樣にあるものたり、子は一日清國の貴人某氏を訪ひ、其政治上に於ける意見を叩きしに、某氏は沈鬱たる

福州人民の慨

清國某有志家と談語す、

語氣を以て語りて曰く、外人ハ清國人民を目して悉く古昔聖人の道を尊崇するに偏し、歐米の進取日新主義を嫌ひ卑屈姑息の民なりと嘲笑するものあり、然れども是れ未だ深く清國の事情を悉さゞるものにして、供に語るに足らざるの說なり、何となれば、我が北京政府を極めて專擅の制を採れるのみならず、人民の意見を容れ國民の趨向に從ふ如きこと一切之れなく、政府の威令を以て盡く一行政の方針を固持し、往々苛虐の壓制に陷ることあり、是れ具眼者の甚だ心服せざる所なり、左れば早晩清國にも一大改革の起る期あるべし、且つ追々鐵道を布設するに至らば、西洋主義も漸次に輸入さるべく、何日迄も古に泥み頑然舊風を墨守するを以て得たりと爲すものならんやと、是れ唯たに一小話たるに過ぎずといへども亦以て支那國中慨世有爲の士尠からざるを知るに足らん、唯れか彼を指して有志家なしと謂ふ哉

支那婦人慣習の惡弊、

女子ハ幼少より戸外に出ることなし、又彼の足を緊縛するに、尺許の綿片を用ふるを以て血液の循環自在ならず、故に成長の後、其足短小にして歩行すること能はず、予私に思ふに是れ蓋し、古昔有婦の夫一に嫉妬にして、女子の外出ハ或ハ汚行あらんことを恐れ、此の如き惡習を造り出せしにあるならんと、予ハ或る日小女の其足を堅く縛束せらるゝを目擊せしことありしが、少女ハ其苦痛に堪へず、泣哭せり、誠に慣習の弊、人体を傷害するの酷こゝに至るを想へば轉た浩歎に堪へざるあり、予ハ幸ひに清國に立ち寄るを得たり、此を以て匆々看過するを欲せざりしと雖も、如何にせん其の內地の如きハ自ら實踐するに非らざるよりハ決して其の情態を詳知する能ハず、且つ又予ハ支那語に通せざるを以て內地を旅行するも利益あきを察したれば福州の如きも尙視察すべきもの尠なからざりしと雖も遂に斷念して此の地を去り天津に

向ひて發足せり、

途上日夜業務に從事し餘暇あらば唯た書冊を友とするのみにて、與に談話するものとてなく宛然鎖窻の裡に呻吟するの感ありき、如此き鬱悶の中に二日と過し、三日と消せしが、或る日一夫予に報して曰へるに、前面に視ゆる所の小嶋は、ポタンポと稱して古昔數千人の僧侶常に此地に來りて修業せし處にして、若し僧侶にして茲に修業するにあらざんば決して名僧たるを得ずと、寧波を過ぎ上海を經、山東の東北を乾位に向ひて航じ、竟に太古に着せり、

ポタンポ島、

太古、

太古は一小市にしてポエン河の南口にあり、岸邊に堡砦あり、此の堡砦い甚だ要樞の地にありて又清國第一の要砦あるものゝ如し、海潮滿つれば漁船自在に河口に進入し得べきも潮退かば船艦の進退自在あらざるべし、されば「チルソン」の如き、「パーク」の如き良將と雖も輙すく此の堡砦を破り以て天津に闖入することと難かるべし、我か觀音崎の堡砦の如き固より要砦ありと雖も是れを彼れか堡砦に比すれば其及ばざるや數等あり、世の人未だ此の堡砦の實況を審知せすして天津河口一舉にして奪ふべしと云ふゝ、是れ蓋し机上の大言に過きざるものと謂べし、予等河口を遡りて天津に至る、

果して一舉にして天津河口を奪ふべきや、

天津

予先づ其市街を通看するに全市太た廣濶ありと雖も福州と同じく特に不潔あり、此地ゝ清國第二の都會にして特に清國第一の俊傑李中堂自ら此の直隷省を統轄して精鋭ある數万の兵衆を帥ひ以て支那全州の重きに任せり、故に人皆な稱して清國の法令は此の地より出で來ると云ふ亦以て李氏か清國に有力あるを知るに足るべし、且つ李氏ゝ自から北洋艦隊數十艘を總督して不虞に備ふと云へり、然るに何故ある

李中堂の政略、

か李氏ハ斯の如き勢力を有するにも管らず、專制即ち命令主義を以て清國全般を統治せんとせり、是を以て叛徒常に跡を絶たず屢々歐洲强國の侮慢を受くるも尙ほ頑然として內地外交の改良を斷行する能ハずと、噫、是れ支那全般の習俗彼をして然らしむるか、李中堂の慧敏俊卓ある何んぞ之を知らざるあらんや、予ハ只だ之を李中堂の爲めに否支那國の爲めに惜まざるを得ざるあり

廣東人は我が江州商人に等し、

天津にハ盜賊外寇を防がん爲め宏大なる都城を廻らし頗ぶる人民保護に便あり、此の地商人多くして商業亦可なりに盛大なり、予就て尋ぬるに、此地の商人ハ大抵廣東人にして其富豪なる巨商ハ何れも廣東人にあらざるハなしと、思ふに廣東人ハ恰も我か江州商人の如きか、彼等ハ同しく羈旅の客を以て四方に跋渉し又廣く內外に商業を試み、次第に其富豪を致せしものありと、實に知るべし、廣東人の商業上に於てハ清國第一等の位を占むることを、物產の重なるものハ鳥類獸類等にして南方諸州及び海外に輸出せり、野菜ハ芋麥等にして農業に從事するものハ甚た尠し、勞働社會の生活の度ハ極めて卑下にして一日に食するものハ芋、及ひ稻米、野菜、河魚、海魚、鷄卵等とす、要するに支那內地一般に食物低廉なりと雖も其の費やす所ハ三仙五厘を以て各自の食料とせり、而して猶甚しきハ一仙若しくハ二仙位にて生活を營み其殘餘ハ一般夫の亞片に費やすのみ、然れども當地等の人民ハ他地方の下等民に於ける如く、人家の擔下に臥し、野原に流涙するものにあらす、如何なる下等の生活民と雖も妻子を有し、各々相當の衣服を着し、又相當の家屋を所持せり、斯く生活の異同を見る所以のものハ蓋し、其地氣候の變異に依るものならん、當地邊ハ南部の如く熱度の氣候にあらさるを以て香港地方の如く天然の物品を供するものあきを以て懶惰に其生を

當地の下等人民は皆家を有し妻子を携ふ、

安んする能はず、夏氣より秋氣に於て十分の勞働を致し、冬時季の食料を貯蓄せざるべからず、冬期に至りて山林に入りて獸鳥を捕らへ以て其生を營むと雖も是を以て敢て其生活を支へ得べきに非らざるを以て、こゝに貯蓄の必要を感じ、其貯蓄の心發して習慣となり、遂に下等人民と雖も皆な多少の財産を有するに至れるなり唯た惜むらくは人民教育の貴重すべきを知らざるを以て心思發暢せず、智識啓發せず、卑屈の氣、等しく存して、「金」の爲めに名譽も耻辱をも顧みざる支那的氣風の脫去することあきを、彼等の貯蓄を爲すや唯た寒中の食料を積聚すれば足れりと爲し、節操あぐ又自立ある氣を有するものあし、彼等は耐忍者なりと云いんよりは寧ろ卑屈者なり、彼等は抑壓に甘んじあから却つて人性の本分の如く思惟せり、其上等社會等に至りては多く日本人が所謂官話あるもの即ち滿州の語にして支那字に(漢字)譯されたる語を談せり、下等社會に至りては一に漢字を知らず、漸く滿洛語を以てせり、予は支那人民の其精神を怠惰ならしめ、其身体を衰弱ならしめ、其健康を傷害する亞片を嗜みて、一日の勞銀を空しく之に費し、終には巨萬の財産を破るに至れる其愚を思ひ、其下等社會の心思高尚ならず、氣慨空しく地を拂ふの實況を觀察するに及ひては益々人民教育の貴重すべきを覺り、干渉教育の必用を知るに至りたり、當天津地方の人民の如く貯蓄の習慣に富み、貯蓄の風習に熟する人民をして干渉して教育の必要を知らしめ其普及を得ば、彼等卑屈の精神を變じて天晴機敏節約ある人民となり、富豪ある商業家となり、强大ある貿易家となる豈難からん哉、般鑑遠からず、我か國民須らく着眼せざるべからず

天津地方の人民は貯蓄の緒神に富むの唯た教育なきを憾む、

予此地に滯留すること凡そ數十日、暇あれば市街を徘徊し、尙深く其風俗人情を探知せんものと欲したれども奈何にせん予は北京語を談

する能はず又遂々此の地の人民英語を解する者あるも彼等は前陳の如き習俗の地に生活せるものあるを以て實に時勢を痛論すべきの學識を有せず、惟だ日用の談話を爲すに止まるのみ、此を以て予が滿足ある觀察を得さりしと雖も唯一清國の商權と日本商權とに就きて周到に其差別を得るの端緒を得たり、然れども是未だ容易すく論出すべきものにあらざるを以て其詳説は他日を期し、唯一問をこゝに殘して止まんか、此地白人種居留するもの多く其商權を壟斷し清人は徒らに其被使役者たるに過ぎさるの看ありと雖も、思ふべし、清國の古より商賣盛にして我國の如く鎖國主義を採りたることあく、自由に彼國人の貿易を許可し、一も之を害したることあきを以て今日尚ほ支那國民の商業上の所長は隱然國民の特質上に表れ、而して其國の商業に遲利あること我か國の比にあらさ、今日の歐洲等清國に向つて亞片を輸入す

支那人は商業に長ず、

るの利を除かゞ、彼等は他に幾何ある利源を清國に有するか、歐洲人の利運をつかぐものは唯一亞片の命脈に止まるものならずや、而して是れ實に清國其國利に富み敢て他國の生産を俟たざるを知るに足らん、而して我が日本人の徒らに武人的氣風に誘りて商業的の習氣に乏しく、一國立脚の基本を輕んずるを思へば豈に寒心肌に粟するを發へざるにはあらざるか、我か日本人士は東洋商權上に於て如何ある感想を抱きつゝあるか、予は先づ其明解を乞はんと欲するもの豈他意あらんや、四月一日纜を天津に解き牛莊に向つて出帆せり數日にして牛莊に着しぬ、

牛莊

此地は盛京の南方なる一小港にして土人は輕躁慓悍夜間他邦人の往來するあれば屢々之を襲ふと、故に夜間通行せんと欲するものは大に

注意せざるべからず、又夜に入れば人屎市中に堆流して臭氣太甚しく、家屋の汚穢ある殆んと豕小屋の如く甚しきは白晝すら大道に放屎するものあるを見る、其醜行不潔見るにしのびざるあり、土人の職業は重に山獵にして田畑に從事耕耘する者尠く、物價は極めて廉なるを以て、此地に來るものは世の需要品を此地に買ひ求め之を他の地に販賣し以て利潤を得ると云ふ、下等勞働者の食品は小量の上海米、野菜、芋、或時は魚鳥等にして牛肉は一般支那人の食せざるものとす、食料は一日一仙五厘乃至二仙にして彼の亞片の爲めに多くの金錢を費やすも毫も之を惜しまず予此地に留まり十數日にして上海に向ひて出發せり、航程一周余日にして上海河口に到着し直ちに上陸して城内及ひ居留地を巡見せり、

牛莊は物價低廉なり、

其道利、

上海港

在港の日本小商人、

此地には日本小商人等の在留する者多し、其大なる者は金子商社、藤井商社、三井物産商會小泉洋行、岸田樂善堂等あり然れども素た海外貿易商として見るべきものなく、予輩が所謂機敏にして國と國との物品を互換媒介する「ホーレン、コモシヤル、マーチヤント」なるものにあらず、我が商人は多くは西洋人にのみあらず、支那人よりしても蔑視せられ、諸外國商行等と相對して取引賣買するものなし、實に我が國の在外商人は他國商人と貿易するにあらずして唯在外本國人の需要に應し、在外居留人と有無相通するの作用に過ぎざる有樣なるは予輩の深く遺憾とする所なり、支那沿海の如き既に前陳の如く、商業上の利便少きにあらず、又其道利決して少からず、而して上海の如きは我が長崎港より里程達からず、特に長崎上海間には毎週一回の郵便船の航通するありて彼我の事情を詳知するを得る決して難からされば、我が同胞よろ

日本人宜く支那の道利に着目せよ、

しく進取の氣象の以て海外貿易の利を謀るゑ躊躇するあからんことを希望して止まざるあり

今此の地下等社會の情況の大概を記さんに、此の地の人民い香港、福州地方に異り、下等貧困なる者と雖も大抵妻子を携帶せざるものなし、是れ蓋し、物價の廉なると人民の能く勞働に堪ゆるとに起因せすんばあらず、而して其職業に至りてい男子い外に働らき婦女は我日本と均しく勞働せず、只室内に眠食するのみ、其の常食の我に異なるは豕肉の脂肪を以て渾て調味をなすことなり、予い屢々彼等の食時に就て之を實見せしことありき、彼等い魚鳥、野菜、豆類等凡て其食品を脂らあげと爲し一度の食に供するに其量極めて少々なりといへとも其皿數殆んと十四五種の多きを一の圓形なる几上に列ね家族一同相ひ會して其食に就くを常とし、而して斯く脂肪を以て調理するい實に身体に健康を

支那人の食時

加ふるにありと蓋し常に食事に消費する額い五人に付六錢若しくい七錢にして貧困なるものい一人一日一仙位にて生活を爲せるあり、其雞卵を購ふや一個四厘に過ぎす其野菜を買ふや二三厘に上らざるあり、是の如きを以て下等社會の生活の難からさるを知るべしと雖も抑も亦其陋卑なるを憫まざるを得ず、其富裕者に至りてい奢侈を極むるもの少なからず、數名の外妾を蓄へ以て逸樂を事とするものあり、特に怪しむべきい下等貧窮者の喜ひて、魚類幷に鳥獸の血液を吸ひ其血塊を嗜しみ、又彼の「百ヒロ」なるものを好めるを見たること是あり、又最も一笑すべきは人若し死する時い他人を傭ひて「哭」かしむること是あり、貧者い一晝夜、富者は十日位とす、而して其哭夫の多さと之を傭ふの長きとを以て世人其の家の貧富を卜すと云ふ、予も亦屢々之れを目擊せ

支那人ハ百ヒロを嗜む
人死する時ハ哭夫を傭ふ

支那人のみ住居する地い城内と稱して周圍に土堤を築きて之を圍み、外人の寄留地は米租界、英租界、佛租界と稱して國々により分割し、自ら其の國風を成して實に殖民の異あらず、又殆んど支那國中に各國の占據地割據する有樣に等し、其法律、政令、市制等も各國みな其の官吏をして之を司らしめけり、棧橋い河岸に在りて滊船は直接に之に結ひ付るを得故に荷物の運搬尤も便利にして我か横濱、神戸及び長崎の如き比にあらず、又製紙所製綿所造船所あり以て數千人の職工を使役せり然れども其監督者い皆外人にして支那人い唯其被使役者たるに過ぎず、斯の如く此の地人民い卑屈にして外人の使役に甘んずるにも管わらず尚外人を目して野蠻と云へり、然るに金錢の爲めにい其頭を蹴らるゝも唯々諾々其命に反かむことを恐るゝ故に政治思想の如きい毫も彼等の頭腦に存せざるあり、產物の重なるものい綿、米等にして多く

我國人須らく支那の綿產に注意せよ、利益から

他の地方に運搬せり、予窃かに思ふに我が日本い此地の名產の一なる綿を輸入し之を以て紀州ねるの如きものを製出し再ひ彼れに輸出し以て之を販賣するあらば其利益を得る蓋し少々ならざるべし、目下我が日本下等人民の碌々無職業にして其日の生活に困窮せるもの甚た多し、幸ひに此等の徒をして此の如き業に就かしめば、彼等をして安易に其身を處し其生を完からしめ、誠に一舉両得の國益を視るに至らん歟、此地の支那人にして外國貿易をあすもの殆んと是あし偶々にしてあるも外人と資本を合して貿易するに過ぎず、左れば商權い猶ほ全く洋人の手裡に在りと稱して不可あきあり、是れ啻だに支那の爲めに嘆ずべきのみあらず實に東洋の爲めに嗟嘆の至りあらずや、

予此地に留ること月餘にして再び香港に皈り被雇の約を解き、尚ほ同地に滯在せり、香江にい二三の英字新聞あり又清字新聞あり、是等を熟

日本人又支那より砂糖の輸出なれば利益多からん、

讀すれゞ略清國の情況の大要を知るに難からざるなり、予此地に滯在すること殆んと數月に渉れり、其間屢々諸邦の人士及び洋商を訪ひ其の高論卓説又ゝ貿易上の談話を聞き亦感慨する所尠なからざりき其節臺灣呂宋の諸嶋より產する烟草及び砂糖を米國、歐洲並ひに日本に輸出し以て大利を獲するものあるを見たり、洋商等ゝ印度並びに香江に於て砂糖再製會社を設置し、同地にて精製したるものを再び日本支那及び朝鮮等に輸出し稱して西洋舶來の砂糖なりとせり、然るに東洋人等ゝ之を知らず眞の舶來品なりと信じて購求するもの甚だ多く洋商之に由りて巨利を收むること莫大なりと云ふ、惟ふに我が日本は砂糖を生產せざる國におらず、後だ之を再製する能ゝざる國にもあらざるに我日本人にして奮つて此擧を爲すものあるきが如し豈亦遺憾ならざるや、

日本より輸出して利益大なるもの多さあり鹽硫黄の如き其一なり、

且つ我日本より清國に輸出して大利を得べきものゝ鹽硫黄等ありとす、然れども是等ゝ未だ日支兩國定約上に其輸出入の自由を得ざるゝ頗る遺憾のことあり切に願くゝ我日本の清國駐遣公使ゝ早くこゝに注目して此解禁のことを務められ度事あり若し之が禁を解かるゝの約を得るに至らゝ將來我が日本貿易上の一利源を開くに至らんこと誓て保証するところあり

清國近海に漂ひ歐米の波航を得さりし時の失望落膽

予ゝ既に述たる如く清國近海に漂遊すること殆んと半年有餘に及びたりしも、予の最初探檢せんと望みし目的地たる歐米に渡航する能ゝざるを以て予ゝ失望落膽の極に陷り殆んと爲す所を知らざるに至れり、尤も米國サンフランシスコに向ひて出航する多の船を得たりしと雖も、予ゝ彼の土に入るを好まず唯た歐洲に然らずゝ米國の東部に航せんことを熱望し切に其機會を求めたりしを以て容易すく其好機を

得ず予が當時の衷情得て紙筆の能く盡くすべきにあらず、予が甕中次第に溺すく烏兎我に先ちて走す、而して此の貴重の日子を徒らに異土に消さゝるを得ざるとゝ噫、何人か我が目途を達せしむるを得る歟、吁噫、何の機か予が望を完からしむるものぞと一念こゝに及ひし其時の慘嘆落魂之を追懷し來れバ今尚ゆ悚然として自失するの思を起さしむ、然れども予か氣慨未だ予か身を脱せざりしか、予ゝ自ら奮然として勇を鼓しつゝ期せしめけり、男子苟も一たひ志を決して自己の生土を去り已に玆に來る設令空しく異域の鬼となるも何ぞ怨みん、況や區々たる辛苦をや須らく耐忍不撓以て渡航の機を俟つにしかず、今にして絶望落膽の思を追ふゝ男子にあらさるありと嗟、予にして若し此際堅忍不撓の志をして堅さらしめバ徒に世の胡蘆たるに過きす安んぞ能く今日あるを得んや古語に曰く精神一到何事か成らざらんと、今日始めて我を欺かざるを知れり、

西貢に渡らんとする苦心

既にして報あり、曰く米國船の印度海に出發するものありと予ゝ抃舞直ちに往きて該船長に面會し、予を伴ひ行かんとを請へり、然れども此の船長も亦容易に承諾の色あく、ひたすら繰り返へして曰へり、子未だ彼地を知らざるか彼地は熱帶にして氣候此の地の比にあらす、子若し行かんか必らす疾病に冒されんと、彼れ首をふりて應せず、予ゝ即ち語を揚けて曰く凡そ男子の素志を遂げんと欲するに於てゝ生死尚ほ避けざるあり況んや疾病をや予が志を起して此の地に渡來せる既に前陳の如し、豈に熱帶地を恐れて我が志を屈せんや、且つ君も人あり予も人あり同一人類にして君往きて死せざるに予獨り之れに死するの理あらんや、抑も死ゝ天命あり死すべきの時來れバ行くも死し行かざるも亦死せん、予ゝ生命を天に委して予が素志を達せんと欲するのみ、然

れとも義氣之を諾すると否とい君に在り、君請ふ予が熱望の切なるを察せよと、船長い予が此の不二の辭を聞き、謝絶すべきの語なく、左程の熱望とあらば予い子を伴いん明日行李を携へて來れと、止むなく諾せしを思へば可笑しかりき、然れども予が身に於ていい救世主の思ひありしなり、此を以て欣然謝して旅亭に飯り翌朝早天旅宿を立ちて米船に投せり、船長曰く、子「ボーイ」ヲ奉事し得れば「ギャビンボーイ」の勞に服せよ若し能いざれば敢てするを要せずと、予い答へて曰く、「ボーイ」は予之を能くすと、是に於て予い其業を取れり、此日香港を發して安南の南部ある佛頭即ち西貢に向ふ數日ならずして達す

ギャビン、ボーイ、の勞に服す、

支那に對せる予が看察の概評

今や愛親覺羅氏の主權の下に生息する其人民い五億五千万に上り、其威壓の下に支配せらるゝ其疆土い亞細亞東南面百五十萬方哩の廣袤に渉り、地形優勝、地質豐沃にして無盡の炭鐵を潛、無限の農品を生産し、數個の長流其間に縱横し、灌漑自在、運漕快捷にして又幾多の良港深灣を控へ、埠頭の樞地にい砲臺を備へて外艦を威壓し、其勞力を問へば低廉あり、其性情を質せば勤儉勉勵の民ありと、而して異種の國人は彼を侮り、彼を蔑視し、彼を同等視せず、彼を奴隷視する所以のもの果して何ぞや、彼を凌辱し、彼を蔑視するもの其の内情に通せず、其形勢を察せずして徒らに虚言を弄し、壯語を事とし以て一時の方畧に供するものたるに過ぎざるか抑も亦彼れ清國の因りて招く所あるあるか我か日本い清國と境するや唯た一葦海水を隔つるのみ、我と彼との交通い遠く數千年以前に上り、其交情に於て、其親愛に於て敢て隣邦の交誼たる一片國際的の證に止まらず、寧ろ恩人として、尊等族として敬親せざんばあるべからざるもの、況んや未來の起

業地として將來の投資場として往來通誼すべき我が日本人にして焉くんぞ徒らに白人異種族の顰に傚ひ危言を弄して彼れが感情を害し、彼れが厚誼を破るある如きい識者の取らざる所あるべし、我が隣邦交誼の國人たるもの須らく彼れが內情を詳悉し、彼れが內政を觀破し以て異人種の侮言を排し其屈辱を雪ぐに力を假し、進んで以て我が國恩を体せしめ我が國威發暢の一方便を求めざるべからず、予輩が酸辛悽悚の中にありて、其風俗、習慣、人情、性格を知悉せんと欲したるもの實に斯意に外あらざるあり、其果を論せんと欲せば先づ其因を求めざるべからず、讀者須く進んで彼れが貿易市港に渡り、彼れが亞片嗜好の實狀を審かし以て予輩が觀察の杜撰を訂されん事を、

予輩先づ其果を推し、其因を繹ぬるに凡そ三原因に歸するものゝ如し、

曰く清國人民の權利の何物たるを了知せざるの弊、曰く、自尊眩他の弊、曰く鴉片を嗜好するの弊、即ち是あり、

第一、清國政府施政の要ハ「民をして賴らしむべし、知らしむべからず」と謂へる古言を規とせるものゝ如く、其政署のある所一に斯の原則に準するの感あり、特に教育の方針に於ける如き最も然り、清國ハ下民の教育を貴重せず、是を以て干渉の策により、兒童の智識開發に力を致すか如きを見ず、故に人民一般に人と人とに對するの義務即ち人間天賦の權利の何ものたるを知るものなく、唯人心、利己の一點に傾き、詐僞至らざる所なく、盜心施さゝる所あし、彼等ハ「利」の爭奪にハ毆打に遇ふも敢て憤起して其者に報復んとするの心なく又曾て報酬の手段を廻らしたるものあし、彼等か眼中利の

外何物をも存せず、彼等ハ仁義を知らず、禮讓を知らず、廉耻を知らず、人權の何に物たるを知らず、自由の何物たるを知らず、其心思の動く所、其視線の達する所、其手足の働く所、唯一〔利〕彼が所謂〔金錢〕の外何物も、あらざるあり、彼等ハ人間として生活するにあらず、唯た金錢の奴隷となりて生活せるなり、予輩決して過酷の言を好まず、と雖も清國中等以下の人心ハ要するに一般此の狀態に外ならざるを奈何んせん、而して此狀態に陷るもの其れ何ぞや、教育普及せざるの罪にあらずして將に何つくにか其因を求むべき、嗟、呼天賦醇良の民をして其智識を啓發せしめず、其心思を誘液せず以て此可憐の狀態に齷齪たらしむるもの其れ誰れぞや、或ハ彼國の用字即漢字ハ其習熟に甚だ困難にして新聞紙を讀み若しくハ普通の手紙を書き得るに至るにハ必らず五年以上を費さゞるを得ざる如き學習の不便亦其一因にあらざるあきかと告ぐる人ありと雖も、其大因に至りてハ予ハ斷然政府教育制度の宜しきを得ざるに歸せざんばあるべからず、

第二、清人ハ己を以て他を計るを知らず、自ら尊大以て中華人と唱へ又中國人と稱し、「チョンファー」「チョンコーヤン」と自稱し敢て他人を憚らず、之に反して外人に至りてハ古來北狄南蠻と指呼したる習俗を以て、我が日本人の異種屬人を稱して夷狄と呼べるの感情よりも尚ほ一層酷惡に呼ひ去りて止まゞ、而して其呼ひ去るや彼等が舌端三寸の間に發するに止り、一定の心意ありて然るにあらざるを以て外人ハ時に擯斥の余り彼を毆打蹴仆するも反抗の色あきのみあらず、曾て憤懣の色を顯して之に報ゆるあきを以て遂に清人を奴隷視虐待するに至れるあり、自尊跨大の弊茲に至る鑑

みざるべからず

第三、綿々一千五百哩の長流十三州を貫串し、無數の支流其各地を灌漑し、曠漠たる原野に米麥、綿花、烟草、藥料、綠茶、蔗糖其他幾種の農品、工材を生產し、蜒々たる山脈に、薪炭、礦鋏、金銀の寶石を藏し、天然の生產品微笑を呈して民人の收獲採堀を竣つ華胥國に夫れ何れの國あるか、清國に實に斯の擾々たる富源によりて幾億萬の輸出高を得るのみならず、彼の清國出稼人の送金又幾億万圓の額に上れり、然るに清庭の國庫に尙空乏を告げ、國費の不足を感じ、其人民に苛稅に苦しみ、其困窮に呻吟するもの夫れ何ぞや、曰く是れ他あらず清人上下共に印度より英人の輸入する鴉片を嗜好するに坐するのみ、鴉片を嗜むの害毒たる敢て人身の健康を害し、人心を懦弱あらしむるのみあらず、實に一國の財政を苦しめ、一國の存立に影響を及すもの鮮々たらざるあり、豈怖れざるべけんや、

以上三者の如きに誠に清國をして卑獘に陷らしめ其凌辱を雪く能はざるの大因なり、清國の今にして其習俗を一洗するにあらずんば如何に其地廣く其民多しと雖も露國の飼料とあらすんば即ち英國の食餌とある蓋し數百年の後にあらざるべし、希くば教育令を改正して洽く人民に教育の普及せんことを計り、已れの何に者たるを知らしめ又權理自由の何に物たるを知らしめ、自國の歐米に對する關係に果して如何、社會の變遷果していかあるやを知らしむるに務むべし、此の如くにして人民一般に其智力の啓發を得、人と人との關係より延ひて國力の如何を知るに及んで自ら謀らすとも他の長を得て已れか短を補ひ頑牢無類の精神自負自大の舌根も次第に除去するを得ん、如此くにして年々歲々鴉片の爲めに消費したる幾億万圓

の巨額も自然轉して鉄道となし、電信となし、汽船となし、工場となし、機械となし、倉廩となすを得ん、此に於てか歐米の強雄も容易に清國を侮辱するを得ず、此に於てか日本の外敵ハ英にあらず、獨にあらず、佛にあらず、米にもあらず、又露にもあらずして、實に清國に在らん、我が有志の士宜しく國家の前途に思を廻らし、今より進んで好を清國に修めざるべからず、然るに我が日本人士ハ其修交こゝに厚からずして、無暗に歐米に心醉し、歐米の通交につとめ、反りて隣國を眺んし、異種族の凌辱の壓に倣ひ輕々として其の將來を慮らさるハ予の主として解する能ハざる所の一なり、

予ハ忠實に告ぐ、日本前途の安靖を謀るハ清國をして起たしむるの策を置きて他に策なきを、假りに是をして其策にあらずとせんか果して然らハ我か大敵となり又大親友とも爲るべき清國をして久しく頑牢自尊の間に彷徨せしめ一朝碧眼遠客の手に落命する如きあらハ我か日本ハ何に由りて社稷を維持すべきかとの問題を推敲せハ思ひ半ハに過ぎん、蓋し古來天下を掌握せんとする英雄豪傑の緣を求めて根を固めんとするもの良に故あきにあらざるなり、顧みれハ在昔日本の文化ハ皆支那より輸出し來り方今其人心を統治する佛法も印度よりとハ云へ支那人の手を經て該國に我れに入りしなり、上流社會の人心を支配し、國民の禮樂を理する儒教も支那より入來りしなり、其他風俗制度一として支那に摸擬せざるもの無し、斯くも關係の深うして密なる支那を顧みすして之を自仆の外に看過し、自起の力に委して彼れを放任し去るハ情誼に、あらざるなきか、優勝劣敗の口術も、彼れ一躍し去りたるのちハ其れ將た誰れの頭上に落ちん、唇亡ひて齒寒しと、隣保の誼を重んせすして碧眼遠旅の客を友

とす、是れ自己が安全を謀るの策なるか、予輩の主として解せざる所の二あり、我か社稷を泰山の安に置かんと欲せゝ、以上列擧の二不解を剖判するに在るのみ、其不可解を解くとゝ何の謂ぞや、

我が日本現今の學術進歩ゝ最早歐米に比して勝るとも劣らず、基督教も亦漸く傳播して我民人の歸依せるもの其信仰に於て又歐米人に劣らず、而して我が佛法の如き其起原支那人の手より傳來せるものゝありと雖も、今日の支那に於ける佛法ゝ甚だ萎微廢滅の有樣にして到底彼れか民心を支配するの勢力あし、又特に技藝の如き我に劣る幾等あるを知らず、是を以て此の我か長處を利用して彼れが開明に力を假し、彼れが發達に補助を與へんこと是れ最も容易にして而して最も巧便なる手段あらずや、然して此れを爲すや先づ我より支那語學生を派遣し以て彼れの民心に通じ、彼れの事情を了せしめ、而して漸く追て彼れが學術を送り、我が基督、我か佛教を問ゝず、凡て是等の傳教にゝ我が人民を以てし、又我が技師を遣ゝして彼れに工藝の道を授け、若しくゝ彼れの布設する電信、鐵道を監督せしめ、務めて我か人士をして彼れの顧問あらしめ、彼れの教授あらしめ、我れの役人あらしめ、彼れの監督者とあらしめ、以て我日本の清國を思ひ、清人を友誼視する有德正義のものゝありとの感情を惹起せしむるに力を致さんことを、日本將來の治安即ち維持ゝ實に清國と好誼を修むるに在るのみ、我か有志の人士希くゝ之を思へ、

西貢港

此地ゝ從來佛領にして支那本部とゝ其風俗習慣を殊にし、漢字を解すゝ者ゝ絶へてあく、且つ少しく英語を知るものあるも政治上幷に社會

上の事情を問へバ邈乎として答ふる能ハさるものあり唯た佛語に至りてハ其の佛領あるが故に之れに通するもの間々之れありと雖も予ハ亦佛語を解せざるを以て彼等に就て事情を詳かにするあたわず、加之留ること僅かに數日に過ぎざりしを以て遂に彼の事情に通するの遑あらずして去る亦遺憾と謂ふべし、碇舶數日にして去りて暹羅の首府バンコックに向つて發す、西貢川を下り南方淼々たる滄海を望み、北方カムボヂヤを眺めつゝ暹羅海に入りシナム河を溯り行くに中流の一小嶼に堡砦あるを見る、此の堡砦ハバンコックの要害にして猶ほ天津の太估砦に於けるが如し、然れども此の堡砦未だ完備せりと謂ふ能ハざるものゝ如し、此の當時の有様に過さるものあらバクールペーの如き一將の襲撃するあらバ一舉にして之を拔くこと難からじと思ハる須臾にして一市を眺望す是あんサイヤムの首府なる蕃谷あり既に

シナム河流の要害

して舶蕃谷に着す

蕃谷府

余直ちに上陸し先つ其市街を一觀するに聊か支那各地と家屋の構造を異にせり商賈ハ大抵酒類を販賣す元來此酒類ハ天津酒と西洋酒とを調和したるものありと云へり又市場に到り視れババナヽ椰子及ひ魚、野菜等を賣れり、而して土人ハ自から野に往てバナヽ椰子を取り來り之を食し以て生活をなす、是を以て土人ハ金錢を要せずして其の一生を過し得るものゝ如し、此地氣候ハ酷熱あるにより土人衣服を着せぬ概ね懶惰にして事業を爲すもの稀あり、市街中一條の馬車道を設け四錢を以て馬車賃の定價とせり、こゝハ頗る便利あるものゝ如し、予一日市街を散歩し一官衙と思ばしき所に至る二人の番卒劍を持し警固するを見たり仍て予ハ其の番卒に就きて當門内に入るを得るや否やを

土人の生活

料らず陸軍省に入る

問ひしに彼れ理解する能ゝざりしを以て予ゝ乃ち進んで其門内に入りしも番卒竟に予を咎めざりしを以て予ゝ四方を縱觀し暑を移して飯れり、後一洋人に就て聞きしかゞ是れ當府の陸軍省なりしと、他の官衙も皆此の如しと云ふ

僧侶の傲慢

此地僧侶の夥多なると市中寺院の多きにゝ始めて來遊する者何人も一驚せざるゝなし、聞く所によれゞ此地人民の其の四分一ゝ僧侶なりと云ふ、而して彼等ゝ如何にして生計を營むかと云へゞ年に四五回彼等自から人民の家に到り直接に金錢を徴取すると猶ゆ苛酷なる收稅吏の如しと云へり

予が此の地に遊びし時ゝ未だ日本と條約を結はざりしを以て日本人及ひ日本物品等は絶へてなく、見る所のもの唯洋品と支那產物等のみなりき、此地の人民ゝ過半支那人にして皆商人及ひ勞役者のみ、支那人にして、サイヤムの婦人を妻とするもの往々あり、男子ゝ支那服を着用するもの尠からざるも土人多くゝ裸体にして三尺幅の布巾を腰部に纏ふあるのみ頭ゝ斬髮あり、婦女ゝ其腰部を纏ふの外左肩より右脇に掛けて布巾を覆へり而して其頭髮ゝ支那人の如し、又當地の中等以上の人民ゝ洋服を着せりと雖も足にゝ履を穿たずして跣足あり、又其下等人民に至りてゝ全く支那人の使役たるが如し

租稅徴收の暴威

此國制令未だ宜しきを得ず殊に徴稅の如きゝ一種異樣の威壓手段を以てし地方稅徴收の際にゝ軍裝したる隊將自から兵器を携へ數十匹の象を駈り軍兵を率ゐて各地を巡回し以て租稅を徴す是時に當つて若し納稅を拒む者ある時ゝ立ろに斬殺す其殘酷なる之を見聞する者慄然たらざるゝなしと、此國ゝ安南ボーマと共に古來天竺支那と稱し其風俗氣象等該兩國に類似したりと雖も人民慓悍にして敎化行ゝれ

遅羅國の獨り四面楚歌の中に介立する所以

す隨て智識に乏しく又學術あるあく常に外人を輕侮して犬豕の如く思惟すと雖も彼等却て外人の爲めに蔑視せらる是れ即ちボーマ、カムボヂヤの如きゝ既に英領に皈し又佛領となりし所以にして其内情に就て察すれバ大に憐れむべき次第なきにあらず、然るに唯だ此遅羅い獨立して其國を維持し得るゝ他あし畢竟國民愚昧ありと雖も亦歐米文明主義を仰望し漸く以て其舊弊惡風を洗除し其の國を改良せんと欲する者あるに由らすんバあらず若し然らすんバ安南の如くボーマの如く強大國の呑噬する所となりたるは智者を待て后ちに知らざるあり然れどもサイヤム國民をして今一歩を進めて速かに文明の敎化を輸入し政治思想を涵養するに至らしめば遂に能く東洋中錚々たる眞個の獨立國たるを得るに難からざるべし是れ此の國情を知了する者の慨嘆する所あり

バルニオ土人の勇猛

幾はくあらずして蕃谷を出發し遅羅海を東南に向け右に馬來半嶋を眺望しつゝ航行し數日にしてバルニオ國に到着す

バルニオ

予直ちに上陸して其風俗人情を視察せんとするに船長堅く止めて曰く此嶋面積大なりと雖も土地未だ開拓せられず土民尤も兇暴獰惡動もすれば人を襲殺し時にまた之を喰ふことあり故に外人此海濱を領有すると雖も常に之れが備へをなす予若し不案内の地に上陸せば其害を受くること疑ひなけんと是に於て予は晝間暫時上陸して夕には早く船に皈り夜陰は陸に近かざりき、然れども此地海濱は大抵西洋人之を領し土民は其内地に棲止するのみありと云ふ産物の頗もあるは金剛石、金銀材木に富めり

居ること一週有餘にして予去つて緬甸のラングンに向て針路を西に

轉し馬來半嶋を右に望みスマッラ嶋を左に眺めて進航し漸々ニコバルアンダマ諸嶋を西方に遠見し馬來遲羅海濱を東望しつゝ行くこと數日にして漸やくイラハヂー河支流の河口あるランゲン港に到着す

ランゲン港

此地小港なりと雖英領なるを以て東印度貿易場となれり、時に緬甸王シヤボ英國に叛いて耶蘇教宣教師及ひ居留人を暴殺せり是に於て英政府大に怒り忽ち印度主府カルカッタ知事に命し兵を帥ゐて緬甸の首府なるマンダレーを襲撃せしむ英の小艦隊イラハヂー河を泝り一擧して其首府マンダレーを拔きシヤボ王を檎にす是に於てか全國忽ち英人の有に歸せり此地の人民も頑愚にして偶像を尊信する特に甚しく何處として僧侶を見ざるなし風俗陋卑にして舊弊を改革するを知らす下等の男女は遲羅の如く皆裸躰にして恬然恥づる處なし遲羅

英國緬甸を占領す

緬甸馬來諸邦人の奇風を聞見して殊に一笑す可きことあり曰くそれ人民の厠に上るや我日本人或ハ歐米人の如く紙を用ひずして直ちに其左手を以てし後ち水にて洗ふの奇俗あり故に食事に當つてハ左手を用ゐずと云ふ

予曾て聞けり北方緬甸人及ひ西藏人ハ兄弟數人唯一婦を娶り之を共有し以て妻とすと是れ眞に然るが如し尤も英領内にハ此風を禁せり

と雖も尚北方ボルマ及び西藏ハ此一夫多妻の俗今尚絶へず此のランゲンハ英領なるを以て左程僧侶多からざと雖も上緬甸の人民ハ過半佛教の僧侶にして高僧ハ政權を持し又兵權を掌握すと其の佛教の盛んに行はるゝ以て知るべし然れども此の佛教國の情況にして既に斯の如し佛教の國家興亡存敗に關する最も大なるを察するに足る此地物産の海外に輸出する重なるハ金銀材木象牙等なり予居ること十數日

雷港の一奇

雷港の佛教

にして、又此地を去り新架坡に向て出發せり、ラングン港を發して數日漸やく新架坡に着す

新嘉坡港

予即ち上陸して其の市街を通覽するに家屋市街共に甚だ清潔なり又歐人等の居住するゝ概ね石造の大厦宏堂あらざるゝなく又幾多の製造場あり機械場あり何れも洋人之を監督して數多の土人を使役せり同場に於てゝ東洋の諸物品を再製し又之を東洋諸邦に輸出販賣する爲めに設置さるものあり故に東洋の需用者ゝ其商標に眩惑するとあく先づ能く其果して眞正の洋製あるや否を吟味して而して後に之を購求せざる可からず此地博物館書籍館學校等の設置あり人智開發上にゝ頗る有益あるが如し殊に公園地の結搆華麗あるあり又人目を驚かすべき一ヶ所の造船場もあり

新嘉坡港繁盛の原因

此地ゝ僅々十英里の小嶋あれども常に內外各種の船舶數十艘の出入あり東洋に於てゝ最要の貿易場にして英國東洋權の依りて存在する所以のものゝ實に香港と當港あるが爲めあり予ゝ之によりて密かに思へり我琉球若くゝ小笠原嶋の如きゝ他日陰に洋人の手に落ち一朝彼等の之を利用する處とならんか必らず一大貿易場となるべきゝ期して明言するを憚らず然るに我日本は大ひに之を開きて貿易場たらしむる能ゝざるのみならず大陸すら尙ほ未た大互市場を開設するに至らざるが如きを思へば轉た痛嘆に堪へざるあり予は偏に我邦の殖産家製造者商業者の目前の小利に汲々たることなく遠大の謀圖あらんことを望まざるを得ざるあり、

此地人民ゝ白人或ゝ黑人或ゝ土人と雜居す故に人事甚だ混錯あり而して下等勞働者ゝ香港とゝ風俗を異にすと雖も其嗜好等の情ゝ大差

あるなく彼の亞片に金錢を消費して爲めに家宅を有する能わず妻子を提携ずること能わず唯辛く一身の生活を營むに過ぎざるか如きも亦憐むべし、此地人民の早婚あるにも愕かざるものなかる可し男女共八九歳に至れば必ず結婚す故に盛世する者甚た多し而して夫死すれも其の婦概ね再家するものなし然れども勞働者の如きも決して此風習を遵守し得るものあるを云へり且又此地回教徒甚だ數多あるを以て此們も咸な男女を問わず割禮を實行せりと何れの國を論せず有害なる舊習の存するもの尠からずと雖も就中支那女子の小足と此地の割禮あるは習俗の弊より太甚しきものにあらざる可し然れども當地の人民恬然として更に其の害たるを悟らざるも實に怪しむ可きの至りなり

當地の男女八九歳にして結婚す

當地の回教一習俗割禮

當地も亦香港の如く縣會あり、然れども皆英人を以て成立し土人も毫も縣治に喙を容るゝを得ず是れ畢竟其の土人之に參與せんと欲するの意あきに因る歟

印度諸州に對する私想

予も碧眼權謀の徒猿臂を伸べて東洋を侵略して遂に東洋人の膏血を搾り以て鴟梟の慾を逞ましくせんと欲して、已得顏に四遠を横行せるを憤り又た清國か五億萬の大衆と全歐土を三倍するの土を有しから其藩域を守衛する能わすして遂に天津條約の下に惴々然たるの有樣あるを慨し、漂然生土を去りて世界の漫遊を企て、洋人が裡面的の習格を知らんため其下層の性情風俗を探らん爲め先つ清人に於ける眞正の氣象を洞察し若し出來可くんば東洋諸國の聯合一致の運動に依り、興亞の策を講じ彼れ碧眼狡黠の洋奴をして其肝膽を寒からしめんと欲し香港に來り上海に遊び福洲に留まり次第

に支那人の習情を知り、又英人等の支那人を遇するの不遜暴戻なるを目擊して益々慷慨悲憤の情に堪へず覺へず悚然として自ら語れり噫、清國の頑牢なる一に何ぞ茲に至れるか遼遠渺漠たる廣土を有し快絶勇壯なる歴史の子孫を保ちつゝ僅々たる嶋國の英人に抗する能はず限りあるの土地を割きて限りなき鴟鵰の慾に充て苟且偸安敢て其屈辱を雪き其舊領を回復せんと欲するの氣なきは是れ果して何によりて然るか碧眼の徒漫りに清人を奴隷視する豈偶然ならんや、彼れが多くの民彼れが廣き地も今や亦恃むに足らざるものゝ如しと、

然れども予は斯くの如く支那の各部に渡り、各所に歴探し益多くの支那人に接し、益多くの清人に交り、而して後益多く彼が眞情を知り益多く彼が氣風を知るに及び予は彼を憫むよりも唯た一層彼をして起たしめざるべからざることを感じたりき於是てか予は切に我が國人の唇齒の關係を忘れ古來の歴史を忘れ今日文化の泉源を忘れ今日若しくは將來に於ける東洋の大勢に思ひを潛めずして恰も一犬萬吠の有樣を以て支那人を疎じ支那國を指笑し或は「アチヤサン」と呼び或は「チヤン〳〵」と冷笑して以て彼を擯斥するの意を抑も何に因りて然るかを知るに苦めり、彼れ支那人をして我が東洋の與敵たる洋人と通商を開らき貿易を謀り其膏血を吸吮せらるゝも我が日本人に與みするを好まず彼れは同洋の契りを知らず、彼れは隣親の誼を知らざれば云はしむるも我が國民は一も痛痒の感なしとせるか、而して我が國民隣親の誼を温むるの慮に出でずして益遠客の旅人を愛し之を畏敬する宛かも天降りの神樣の如く崇拜歡待啻あらず、而して彼れ碧眼人は益々驕慢を事として自利を謀る

の外進んで正義を守らず公道を踏まず、我が國民を愚にし、我が國權を傷つけ、(現今居留外人の非條約改正論者の動作を見て知るべし)我が多年の恩惠を謝さず、我が幾多の便益を感荷せずして妄りに我が商權を蔑視するに至るも我が國人い其不義を責めず其無禮を讓めず、其罪惡を數へざる如き予輩の深く解する能いざる所、心あるものや、豈浩歎せずして止まんや、

再轉して安南に至りてい其亡國の狀を察し、サイヤムに到りてい其國力を窺ひビルマに足を止めてい其土人の氣象を探り、其習俗人情を目擊して其國疲弊に陷るの所以を考ふるに及ひて益々彼邦の衰頽に無限の感を惹起し、亞細亞列邦の命脈の急迫あるを慨するに及び、啻に清國をして末倒に起すの要を見るのみあらず須く此等の列邦の振起を謀らざるべからざるを感じぬ而して能く此等列邦の國人に比して進取の氣象に富み敢爲の精神を具へ其卒先者として興亞の大策を畫すべき國民い之か日本人を措て他に其者あるを見ず、然れども退きて我が他位を考へ、我が國權の弛張を問へば憾むべし、我亦其級を上る高からさるを、噫、天亞細亞を放棄するか噫何の日が首を駢べて東西同一の月色を賞し得る哉、天何ぞ我を貶するの甚しき

今日い最早亞細亞の名を顯いすべきの日あり、久しく歐洲ある威勢の旗を眺めつゝ止むべきものにあらず、今や宜ろしく採りて代るへきの日あり、彼れより發するか我より挑むべきか何日しか鐘鼓を鳴すべきの日に際會せすんばあるべからす、而して是に際會すべきものは當に日本のみならすして支那、朝鮮、天竺、波斯、即ち亞細亞全洲力を協せ兵を合して以て其の機に乘せざるべからず然れとも大厦の

くづるゝや、一木の能く支ふべきにあらす、是に於てか今日正に聯衡以て興亞の策を講すべきの必要を見る而して之を講するの方法如何、曰く、他あらず切に支那と好を修め、信を通じ、通商貿易を盛にし以て彼我の感情を和らげ時に我が國人を遣いし時に我が策を献し以て彼れか内地を拓き運輸を通じ相提携して安南を扶け、サイヤムを勵まし有無長短を相授受し進んてビルマヲ獨立せしめ印度を回復し倶に其實力を養ひ其威勢を張り以て其目的を達するにあり、我か國權を振暢し、我か國光を發揮し彼れが驕暴を叱咤し、彼れが罪惡を訂して一毫をも假すなからんと欲せゞ先づ其實力を養ひ先づ其羽翼を整へ其後援を糾合し、其連衡合盟を謀るべし其羽翼の整頓を得、其後援の鞏固を得んか、彼れか獅眼鷲爪も得て其際に乘するの期あらざるべし區々たる對等條約の如き、何の請求、何の同意、何の承諾を

か要せん、

予ハ既に我故郷を去りて以來十月に亟んとするに至りしも尚は素望ある米歐行の機會を得す、只野蠻未開國に流涙するのみありしを以て、此間また予をして落膽失望せしめ、實に悲境に沈ましめたること數回ありき、然れども予ハ自奮自慰千苦万辛備さに嘗めて敢て辞せさ、是非に此の希望を遂げて旣朝し後に我邦社會進歩の万一を稗補せんことを期したりき然るに幸ひに予此地に在留すること殆んと十有餘日にして米國帆船のボンベイを經て米國紐育府に渡航するとの一報を得たり、予ハ手の舞ひ足の踏む所を知らさ直ちに走つて其船に到り船長に而會し予か是迄の艱苦を縷述し敢て予を伴ハんことを懇請せり時に船長笑て他を曰ハさ、即時予か請ひを諾せり、是に於て漸やく始めて米國に航するの時機を得たり、當時の予か喜悅實に名狀す可からす予

漸く米國渡航の機會を得たり

其船名をパリトロースと云ひ之れか船長をボンハム氏と曰ふ

ハ天を仰ぎて其幸慶を謝せしこと殆んと幾回なるを知らざりき、船長名ハボンハムト云ひ船名を「パクトロース」と云へり。船長ハ實に義俠の士なりき、實に予が爲めの恩人なりき、氏ハ幼時日本に來航したることありしと云へり予ハ其日辞して寓に皈り翌日行李を携へ往きて再ひ該船に投ず予ハ「パクトロース」號に投するや直ちに船長に問ふに何れの職務に從事すべきやを以てせり然れども船長ハ亦笑て曰く、予既に子を載せて米國へ航す可とを約す、其職務の如何ハ敢て神を勞する勿れ、且つ今拔錨に際し職に就く者ハ皆既に備りて欲くる所なしと、時にパイラット來りて出發すべきを報ず、依りて直に錨を揚げ新嘉波を發せり、時に風波靜穩にして船走ること矢の如く右に馬來西亞蘇馬答臘あり、而して蘇馬答臘峽ハ恰も我か神戸より馬關に至る瀬戸内の如き海峽あれハ両岸の風景誠に掬すべし、同夜ニコルノ嶋を北に視、シナケン

新嘉波を發す

岬を南方に眺めて漸く著淼たる印度洋に入るや、予ハ一種言ふべからざる感情を以て望遠鏡を手にせり。予ハ長崎港を發するや、我が故郷を思ひ、我が故山を遠く眺めて又前途の遙渺たるを追想したりき、當時の予が胸中にハ前を眺むと後を思ふとの二種の感情を以て充されけり、然れとも這般の感懷ハ全く之に反して只今迄踏み來り巡り來りし亞南、遅羅、緬甸の各邦に於ける亡國の嘆を以て充されたりき、予ハ此等亡國を吊ふを以て滿足する能ハさりき、予ハ如何にせハ是等亡國を悲慘の裡より救ふべきや、如何なる策によりて蒼眼の徒を其本國に逐ひ返すべきやの思ひに於て戰ひたりき、

錫蘭島

船ハ印度洋に入るや針路を西に轉し、馳ること數日にして錫蘭嶋の一市場コロムボに着せり、此地ハ久しく英國に屬し人民其治下にありて

甘んじて壓制の下に生息し、概して其苦痛を感せざるが如し、其風俗野卑陋劣にして大抵男女裸体跣足あり、英領い何れの地も巡査の如きい重もに土人を使役すれども少しく勢力ある官吏は皆英人を以て之に充つ故に土人にして政權に參與するものなし、産物い珈琲、寶石、眞珠等あり當地い數千年來有名なる釋迦の修業苦學して古教即ちブラマ教を改良し、佛教を傳道せし舊蹟あるを以て今尚ほ其の信徒甚だ多し、然れども其弊害も亦施ひて今日に及べるもの多く其土人死後極樂淨土に到らんことを欲して或い苦業をなし、或い斷食を做し、又い其子女を其犧牲に供する如き或い配偶の死したるものい人間外のものなりと、擯斥せらるゝを恥ち自ら其身を河海に投するに至る、其教法に侵染すること既に痼疾となりて拔く可からず、亦嗟嘆すべきの至りなり、

予い曾て埃及の名士アラビーパシヤの此地に遠謫せられつるを聞き居りしを以て今之を訪問したく欲したりしが、其の深山に在るに依り遂に果さず。實に遺憾の至りなり、

（天竺の一名士と談話す（佛教を評し又印度國の狀を嘆ず）

予い一日當船長の紹介に依り當地の一貴人某氏を訪ひけり、某氏い一度歐洲に遊ばれしことある由にて能く英語を解せり、此の一事實を以てするもよく人をして其の當地有識の士たるを判せしむ、予い此人と談する殆んど一時間余に及べり、其談偶々宗教に渉りしに某氏の言に、古來「ブラマ」教等の亞細亞諸邦に流傳して漸く人心に浸染し皆、寂滅爲樂を冀ふより苦業を忍ひ巡禮斷食を甘んじ、專制抑壓を以て取て政府の命令に從はしむるの制は東洋文化をして却歩せしむるに至れり、故に宜しく此等の弊習を掃驅するにあらずんば決して將來東洋の文明は望むべからざるなりと、氏尚語を次て曰く、然れども「ブラマ」釋教の如きい今日上流社會より擯斥せられ唯愚夫愚婦の之を尊信するに過ぎ

ざるのみあるも我が施政の途に及ひてゝ上等社會に於てすら尚ほ專制主義の非あるを知るもの甚だ尠し、否之を知るもの尠きのみあらず、現に英政府の壓抑に對して其腦裡に刺衝を感するものすらあらず、而して是れ現時印度諸邦の狀態孰れも此の如くならざるゝなし、予以て如何と爲すや、と、予ゝ沈思久しうして即ち答へて、曰く、豈啻たに印度のみあらんや、支那諸邦皆然らざるはなしと語畢りて相俱に喟然たること久しかりき、

予ゝに留ること數日にして又去りてコモリン岬を北に眺め漸く針路を北西に轉じてテッカクリー諸嶋を西に看カヅル山脈を東に望みつゝ海に沿ふて北方に航しボムベイーに達せり、

孟買港

孟買は印度英領に於ける第二の互市場にして人口六十万に下らぎと云ふ、其風俗ゝ頗る賤陋野醜にして頭に赤木綿を纏ひ大半裸体あり、然れども士人又猛悍あるあり、市街は陋隘にして汚穢ある矮屋實に見るに忍ひざるあり、唯其寺院佛閣に至りてゝ結搆甚だ壯麗あるものあり、又英國分營あり以て其他人民を威服せり

船ゝ孟買嶋に泊すること數日ありしが前の「スチュウエルト」即ち賄夫偶々疾病を以て職を辞し上陸せしを以て、船長ゝ予に之に代りて其業を執らんことを勸む、予之を諾し其職に就けり、居ること幾日あらずして船ゝ紐育に向つて發しぬ、

興亞策

予輩微賤を顧みず濫りに國家の大勢に喙を容れ、敢て興亞の大計を痛論せんとする所以のもの實に萬止むを得ざるものあれバあり、人あり予輩を目して大言、壯語の汚徒とおし、所謂口克く言ふて、事實際

に適せざるものありとや曰へん、然れと予へ固く信せり、予へ支那の香港を失ひしへ支那の無氣力あるに由ることを知り、安南の南方即ち西貢を失ひしへ人民の懦慢に流るゝ所以ありしを知り、ビルマノ滅亡せしへ彼等の無智文盲なるに由れる所以を知り、而してサイヤムの獨り依然として四面楚歌の中に其獨立を維持し得る所以の者へ誠に日進主義を採用するに由るものたるを知るに及びて益々予が意見の唯たに壯ならさるを信せり、讀者尚こゝに慮を惹く能へすバ乞ふ亞細亞の地圖を繙け、

新嘉坡へ早く英人の手に皈せり、數億万の民衆と世界有數の物産を藏むる印度亦既に英人の左右する所とあれり、サイベリアへ露領たり、カラフト亦既に露の掌に入れり、滿洲も亦同じく露有たり、タスキンも亦同しく露有たり、而して殘るアフガニスタン、ベロチスタン、インドスタンモ亦既に己に英領となれり、其他カムボヂヤへ佛領の下に呂宋ハスペイシの下に、澳門へ葡萄牙の下に、アラビヤ、ジユデヤ、小亞細亞わみな土耳其の下に生息せるにあらずや、唯日本、支那、朝鮮、サイアム、ペルシヤの數邦のみ漸く其繫累を脫して獨立の餘燄を放つのみ、亞細亞全洲の景況實に斯の如し、豹狼虎豹の種族、彼等へ先づ未開劣弱の邦土を侵伐し、之に民を移し、兵を植へ以て其本據を定め、其羽翼を養ひ、其連鎖を作り、其柘營の熟するを俟ちて其大鵬の欲を逞しくせんと欲す、其手段の狡猾なる、其謀畧の陰險なる予輩想像の比にあらず、天山、葱嶺の東南、支那海洋の天正さに黑烟曚々たり、革命未だ定まらざる亞細亞東端の地今將さに風騰雲蒸の氣を見んとす、蘇秦合從の說を聽かざるも般鑑遠からざるにあらずや、我か國民永く太平の春に醉ひ、近く予輩をして知言の名を爲さしむるあかれ、

抑も亞細亞を面積より見れゝ全歐羅巴の三倍なり、人口より見れゝ二倍即ち八億万人なり、山に於てゝ世界最高のヒマラヤ山の印度にあるあり、湖水に於てゝ裏海のあるあり宗教に於てゝ佛教も回々教も基督教も皆其生産を亞細亞に取れり、「コンパス」の發明も火藥の發明も、紙の製造も、文字の發明も皆亞細亞よりせるにあらずや、其人種の生殖も、其市府の發生も皆亞細亞よりせしにあらずや、而して今や文明を去りて野蠻に居り、古に文明を造りて今未開に荒涼たり、古人風教を傳へて今人自立する能ゝず、祖宗の藩土も今將さに碧眼人の手に委せざるを得ざるとゝ、榮枯盛衰の常無きとゝ云へ、吾人東洋の民其租先に對して何の面目かある、何の忠孝か之れ得ん、

予輩潛かに我か東洋人種の此の狀態に赴ける其流れに溯り其源を探れるに、思ふに其依りて來る所實に彼の專制即ち命令主義に歸せすんばあるべからず、而して此主義によりて人民を愚にし、其性情を壓し、其行爲を箝束したるものゝ外尙他に彼の宗教によりて人心を墮落せしめ之を腐敗せしめたること是亦其一因たるを信ず、

東洋列邦をして今日の悲慘に陷落せしめし所以のもの種々あるべしと雖も概するに以上二原因にあるものゝ如し、然り、果して彼れ主要の原因たるを信せば、亦之に處するの策決して難からざるあり、之れが救治の策唯た其源に溯り、其本を理するの外あらず、乃ち教育の普及を務め彼等か智識の開發を促し、彼等か見識の發達を求め以て人類の權利を知らしめ以て自由の民たらしめ、以て國家あるを知らしめ而して漸く彼等が我が信義を知り、我か恩愛を覺り、又修好の必要を知るに及び益々通商貿易を盛にし互に有無を交換し、過不足を補出し、以て相連衡して可成的他力を假らず、他物を用ひず、東洋連邦の

産貨を互に通用するに務めんか、赤髯の奴いかで今日の驕暴を用ゆるを得ん、必らずや彼れより來りて昔日の凌蔑を謝し、自ら膝を折り腰を屈し、辞を卑ふして我等か親交を得んことを希願し來らん、此の如くんハ自由の旗を喜馬拉山頭に飜し自由の船をカスピヤン湖に泛ぶる何の難きことか是れあらん又此くの如くんハ郁々乎たる東洋の文化を宇内に誇り、燦々たる東洋人士の事業を天下に示すを得ん、豈愉快あらずや、希くハ先つ支那と通商を開らき、交誼を温め、貿易を盛にし、以て深く彼れと結托の約を整へ能く興亞の根據を鞏固にすべし、凡天下に事業を爲すの大なるもの多しと雖も蓋し斯の興亞の策を謀するより他に大なるものなし、過去、現今及び將來に於ても焉より大なるものなからん、然らハ之を果すハ人生の最大榮譽なり、東洋男子豈振起せずして可あらんや、我が日本ハ既に代議の政治を採り、立憲の政体に入る、實に東洋に於ける憲法國の先魁者なり、誠に東洋に於ける興論政治の標準者たり、嗚呼、斯大なる興亞の策を畫するもの我が日本を措て夫れ孰れぞや、大方の志士希くハ予が志趣を捨つるなかれ、

第二篇　米國

アラビヤ海を南に航し、印度洋に入りマダカスカル嶋を西に望み、或る時に之を北に眺め、渺茫として一天際涯なき大洋を航し、行くこと既に幾日、此際時として「インデヤン、ムーン」風に遭ひ、海波匈匈として高く漲り、砰磅として船体に激し、船殆んと覆沒し正さに飢鮫の腹を肥さんとするの危嶮ありしこと屢々ありき

船長の義氣予を商船學校に入らしめんとす

當船長の前にも陳べたる如く米人にして頗る義氣あり又時事に該達せる人なりき、此船長の予が爲めに種々の忠告を與へ又種々顧慮を煩はされたりき、船長の又屢々予に勸むるに航海者となりて東洋貿易の航路を開らくの必要を説き又予を米國商船學校に入らしめ他日一流船の運轉者となして以て航海に從事せしめんと欲するの意を告けられたりき、然れども予の之を肯んせずして曰へり、足下の厚情の深く之を謝す、然れども予の諸劣其任に堪へざるを、且つ予の今回の渡航の歐米目今社會の事情を視察するの目的あれが爲めに數年を要せざるを得ず、故に足下の勸めに應し難きを如何にせん、と船長の直ちに語を次きて曰へるに予が目的の甚た好し、然れども彼の國に渡りて其の社會の事情を視察せんとせの須らく數万の金を要すべし、然るに予今囊中無一物にして敢て之を爲さんと欲するも何ぞ其の目的を達するを得んやと、於是予の平素の持説を吐き毅然として起て曰へり、然り予の素より囊中一錢の貯へあることなし、而して其遠く海外に航し、其邦國に在留し其社會の實況を視察せんとするにの數万の金を要すべきの元より論を俟たざるあり、且つ此の如く金力を藉りて之を爲すに於ての其事を果す甚た速かにして亦容易なるべし、然れども是れ畢竟外觀の

模樣を知るものにして眞に其の內情實況を取調ぶるものにあらず、唯だ其外形の模樣のみを知らんと欲せば万里の波濤を冒し、數万の金圓を費やすまでもなく、歐米の新聞雜誌を讀み又は各種の書籍を閲すれば足れり、或る貴族紳士は滔々として此愚を學ふと雖も、予が冀望は大に之に異り自から歐米紳士紳商の邸に入り、或は賤業に從事し以て精細に其の家族の常態、親戚朋友に於ける交際の如何、下等勞力社會生活の實況等に至る迄極めて其下層の裡面を視察せんと欲するにあり、是れ幸ひに予が今日足下の義助を辱ふする所以なり、と、船長も是に於て亦前言を再びせず、反つて眞實に予が擧良に面白し、と稱したり、是より又屢々予が爲めに米國政治家及び其人士の情態等に付き懇ろに談話を爲せり、如此く業務の餘暇には談話を樂み、其諭示を受け、又は讀書を以て悶を排し、鬱を散じつゝ其日を消せり、一日一夫予に報して曰く彼

處に見るは彼の喜望峰なりと、予は直ちに出て之れを遠望し、忽ちに膝を叩ひて一嘆して曰へり、嗚呼回顧すれば今を距ること三百九十年以前彼のヴァスコダガマー氏の始めて此岬を回航せし以來歐洲全土の人心を一振せしめ歐亞貿易の新大航路を啓けり、氏が航海の事業豈偉大ならずやと、既にして喜望峰を回り大西洋の南端に到る茲に於てか米地を踏むの日近きたるを思ひ予が精神頓みに壯快を覺へ、心何とあく浮き立ちて日に其日を指折り數へけり、是より航路を北向に轉じ行くこと一週余日にしてセントヘレナ（セントヘレナ嶋）の一嶋左方雲霧の間に現れたり、予は此一小嶋嶼を眺むるに當り、今より八十余年前歐洲全土を席捲し以て偉名を宇內に轟かせし佛帝那勃翁の遺謫を追想し、轉た英雄の末路に感觸を惹き船の亟かに進み去るを恨みたりき、

須臾にしてセントヘレナを後に見て針路を西北に轉じ、行くこと數週

パナマ島を望み深く感あり

にして又遠く一孤嶋に望みたり、是れ即ちパナマ嶋なりき、予い此の嶋地を眺むるに及ひ又切に彼のコロムブス氏が四百九十余年前の偉業を追想し無限の感を浮ぶるに至りたり、當時氏は地球の圓休なるを確信し東印度に航し其金銀寶物を得んとするにい南航の迂遠にして一層西航の直捷なるへきを察し屢々佛帝又い西班牙の朝に遊説せしも用ひられず、學者に嘲られ、士人に笑われ、本國に歸る能いず、又他國に居る能いず、身い益々貧を重ね、窮愈々迫り而して其志益々固く、奮然其の擧を果さんと欲し不屈不撓愈々遊説して止まず、終に漸くイサベラー女王の贊助を得て航行するに至り幾多の苦界を蹈み、幾多の慘狀に遇ひ、萬死一生を得て漸く此孤嶋を發見せしと、予輩元より其人の萬一にも當らずと雖も昔人の苦行と今人の樂境を追懐し、我邦渡航の淺苦又語るに足らざるを丁し、昔人絶大の偉業を嘆稱しつゝあること久しかりき

既にして北航し行くこと又數週にして漸く遥かにニューヨークを望むを得たり、此の時の予が喜ひ實に譬ふるに物なかりき、實に合衆國い自由の鄉地なり、自由の極樂なり、自由の建國なり、自由の空氣を自由に呼吸し得るの自由淨土なり、予い之を仰望すること久し、今や漸く其素望を達し、こゝに之を蹈み之を見るを得るかと心頓みに悠々たりき

自由燈

港の南方に當り一小嶋あり之をベードロースと稱す嶋上に燈臺あり之を自由燈と云ふ、抑も此の自由燈は曾て佛國人より米國人に寄贈したるものにして其意たる自由は眞理なり自由の人に於ける猶ほ魚の水に於けるが如し米國は是れ自由の鄉土なり故に佛人之を米人に贈送したるは蓋し自由國に於て此自由燈を掲け以て宇内万國の暗黑を照らさしめんと欲するにありと云へり

六月十日ニユーヨーク港に著す

須臾にしてニユヨーク港に著す是れ實に六月十日なりきニユヨークは南北八哩東西六哩の一小嶋にして東はロングアイランドに接し西はニユジヨーシ州に臨み北はニユヨーク州に對す港内深くして數千の大船を入るゝに便なり日々船舶の出入するもの百數十艘帆檣林立笛聲絶ゆるの時なし以て世界第二の貿易場たるの稱過言ならざるを知れり

ニユーヨーク市街の光景

余上陸して先つ市街を通觀するに大厦高堂の壯麗なる亦以て人目を眩惑せしむ殊に之を疊むに練瓦を以てし其高きと大凡十二三層にして人の昇降するに機械を以てす之を稱してエレベータアと云ふ又鉄道馬車あり之を挽かしむるに駟馬を以てす又空中に高架せる鉄道あり滊車の來往常に絶ゑざ之を稱して同じくエレベータアと云ふ而して五仙を投すれば其片道を通行し得るなり實に輕便と謂ふ可し

中央公園

ゝ紐育府の中央に在り米人之を稱してセンツラルパークと云ふ園内に小丘を築き粧置するに大古埃及の石碑を以てし各國の草木其中に茂り小池を穿つて以て短舸を浮べ或ゝ架するに小橋を以てす其風趣愛す可し文人墨客杖を曳き男女老若來り遊ぶ者千百群をなし園内常に雜沓を極ゝむ、セントラルパークの側にゝ動物園在りて萬國各種の動物を蒐集し寒温熱の度を測りて各種の動物を蓄ふ其種類の多きと數ふ可からざ觀者をして驚愕せしむ、動物學を研究する者にゝ實に好參考物たり、又植物園にゝ万種の植物を聚植す是れも亦寒温熱の度に應して培植するに依り植物常に繁茂し觀る者をして壯快を感せしむ故に植物學士ゝ皆此に來りて其實見を驗すと云ふ

動物園

植物園

大橋

大橋は紐育とブルクリンとの間に架設す之を稱してサスペンションブリヂと云ふ此の橋を架するには十數年を要し其費も亦數億万圓か

りしと云ふ、數千噸の帆走船其下を容易く通行し長さ二哩余其幅十五間余にして是を支ふるには只二柱を以てす橋の両側に鉄道を布き其左右二條に馬車道を設け中央に人道あり左右の欄干には電氣燈を吊し其電氣燈の數三十あり而して一の電光恰も三千有余斤の燭火に均しく暗夜も烱々として白晝の如し始めて此地に來る者一見驚賛せざるはなし、此の電氣燈は嘗てヤジソン氏の發明する所にして爾來米國全般に流布し延て歐亞諸洲に傳播せり

商船學校

商船學校は市の東部にありて數百人の學生常に就學す此學校は各生徒をして順番に水薪の勞を取らしめ時としては數艘の舟を粧し學生をして實地練習せしむ故に該校より出る者は皆よく能く實地に熟達すると云ふ、

商業學校

商業學校は同府紳商の寄附に依て設立せらるゝものにして學生常に五百有余名あり該校も亦時々學生をして實業に練習せしひ故よ此の學校より出る者は社會に信ありて有名なる豪商と爲りし者多しと云へり

大學校其他諸學校

大學校は紐育州の有志家の設立にして八百有余名の學生あり教員は皆有名なる道德家若しくは熱心なる教育家なり故に學生業を卒ゆるの後社會の實務に適する者多しと云ふ、蹈舞學校は紳士紳商の設立に成り甚だ美觀あり而して紳士紳商及び其婦女等就て舞蹈を練習す、然れども惟奢侈遊逸に流れ文明社會に稗益するものなきが如し我東洋にも近來往々此製に倣ふを見る嘆嗟すべきの至りなり、其他醫學校書學校藥學校師範學校等十數の學校記すべきもの多し、と雖も之を省く、鉄工場は市の北部に在りて其構造の宏大なる方一町に至るの機械數多を備へり而して各場常に數千人の工夫役を執れり其鋼鉄を以て機械を製するに其の柔軟なる宛ら飴を扱ふが如し實に其技の練熟に

感服せざるを得ず、製紙場は方二町の大構造にして常に五六千人を使役す其の迅速なる一方より鑑樓を投入すれば直ちに他方には純白なる白紙と化し來る等其の之を製出するの夥多なるを實に驚く可きなり、博物館は規摸壯大にして堂樓市中に巍然たり、館内には宇内の奇物珍品を聚蒐せり是れを通觀すれば其陳列品の多きと其珍奇なるとは我東京博物館の比にあらず書籍館もまた大構造にして數万種の圖書を備へ人民の縱覽に供す來觀者日に數千人に下らずと云ふ、就中新聞記者及ひ著述家等に容易に古今各種の書を閲覽するの便を與へ又人民の數週間自家に之を借り得るの自由を得せしむる等是れ亦人智を增進せしめ學士論客の便益をなす淺尠あらず、蓋し米國文運の今日の旺盛を見るに至りたる所以を知るに足る可きあり、裁判所、銀行、警察署府廳、府會議事堂、病院、倶樂部、旅館等の宏壯美觀なる記す可きあれども

新聞雜誌

亦之を畧す

新聞雜誌は百數十種あり其大なる者は紐育ヘラルドと稱し日に三十五万余枚を販賣すと云へり、新聞紙ハ社會の耳目なり若し社會にして耳目なきか其の靈活を欠くや必せり、然るに我日本の大新聞と稱するものも漸やく販賣高二万余に過ぎと聞けり、噫、彼我文明の差知るべきのみ、市街ハ廣濶にして太抵両側に樹木を植へ夜間ハ照すに電氣燈を以てす車馬晝夜絡繹として肩摩轂擊大に雜沓を極む、又高架鉄道の下にハ馬車道ありて其通行頗ふる多し、亦一奇觀と云ふ可し以上ハ紐育市街の概觀なり

宗教

宗教　亞米利加ハ自由の鄉土にして政治宗教の自由並び其の極に臻れり、然るに殊に怪しむ可きハ方今宗教の情態なり、此國ハ信仰の自由あるを以て宗教も亦其類多しと雖も先づ是れを要するに三種に出で

宗教に君主專政代議政治共和政體の三体あり
アスクスパリ
メソザンス
トヌーモン
トモア
又「マーモンド」ト云フモアリ

ず今之を政治体を以て譬ふる時ハ恰も君主專政代議政治、共和政体の三体あるが如し其の君主專政とハ僧長之か教會全般の規則を設け以て之を專行し教徒ハ一に之に隨ハざるを得ざるの組織にして羅馬教の如きハ即ち是れあり其代議政とハ君主專政の制に異り數多の僧侶教會規則を議定し而して後教徒是れに服從するの組織を云ふ、共和政とハ又右両者と其利を異にし苟も教徒たるものハ總て其教則議定に參與し將來規則の善否を議定するの權を有するの制是あり此國にして尚ほ君主專治の如き教体の行ハるゝハ怪しむべきに非すや」又教會にも種々の組織を以て成立するものありと雖も之を大別すれハ左の五種に外あらず、第一ハ百万圓以上の紳商豪族の設立にして是れ最も壯麗のものなり會する者大凡そ數千人を常とす而して其家族を率ゐて來往するに皆あ馬車を以てす是れまた華麗あり然るに是に教會に五種あり

會合するもの男女共に他人の容貌粧飾等を視んか爲めに來るもの甚た少なからず而して又其の説教の終りにハ聽衆より多少の金員を徵收す是等ハ豈に弊習と云ハざるを得んや、第二ハ十万圓より百万圓に至る紳商紳士の設立にして會する者不斷數千人其の風習大抵前者に均し第三ハ壹万圓より十万圓に至る人士の設立にして其風習亦前者と異あらず第四ハ一万圓以下の人士の設立にして其風習是亦同上あり第五ハ水夫並に下等勞働者社會の爲めに紳商紳士の設立したるものにして此の輩ハ熱心に教理に從ふ者少しと云へり以上ハ方今紐育宗教の概觀なり

貿易

貿易ハ自國物産及ひ其製品等を海外に輸出し又海外より其物産を輸入す其主眼なるものハ石油石炭牛羊穀物等にして、是を各邦に輸出するに日々七八十艘の船舶を以てす其頻繁なる一見して驚嘆せざるも

米國紳士の私行を探らんが爲め自ら某紳士の料理人となる、

のおし以て其貿易の繁盛おるを知るに足れり、其他貿易上の事記す可きもの甚おからず(他日を期して之を詳載すべし)余此地に來り日々に市街を通行し各所を縱覽し略ぼ其外形の美麗宏壯おるを知るを得たりと雖も未だ紳士の私行等に關する狀態を詳かにするを得ざ爲めに種々苦慮を回らしつゝありしか幸ひ前船長ビンハム氏予が爲に一の紹介書を與へられしを以て予い一日其宛人おる一紳商の門に赴むき敢て賤業を執り其下僕たらんとを請望せり時に紳士予に問ふに予い如何おる業務を做し得るやを以てせらる予い之に答へて聊か料理の事を知れりと言へり紳士一考して乃ち曰く善し我れ子をして庖厨の事を司らしめんと、予欣然拜謝して去り日おらざ其家に到り其業に服せり、居ること數月にして夜い紐育某私立夜學校に入り文を學ひ其間或い新聞紙を閲し或い紳士紳商の行狀を注視し漸やく內外の實情を知ることを得たり請ふ先つ勞働社會に就て述べん

勞働社會の狀態幷に其勢力

勞働社會い概ね共同一致して甚だ勢力あるものゝ如し大工は各地方毎に大工の結社あり、運搬者は運搬者の結社あり、石工は石工の結社あり、如此各皆おる結社(即ち組合)して其の業を勵し各其の社長あり而して全國の同業各同盟をなし各組合を設く其全國勞働社の總長をヘンリー、ジョージ氏と云ふ、且又各部被雇者の雇主に對して賃錢を增加せんとを乞ひ、雇主之に應せざれば被雇者は各部長に報し、各部長は是を總長に報じ、總長之を納て其就業を止めしむ此時にありては其平生蓄積する所のものを以て本部會社より之を配與して其の生活に困難なからしむ此に於て雇主は遂に被雇者の意に從はざるを得ざるに至る之を

同盟罷工

稱して即ち「ストライク」と云ふ是を以て米國勞働社會には甚だ勢力あり之を要するに勞役者の勢力あるは一に其一致結合鞏固おるに起因

せゞんばあらゞ、予嘗て聞く一千八百八十四年大統領撰擧の際此勞働社會相約して支那勞役者を米國より放逐せんとするの說あり時にデモクラット即ち分權黨い早く其の意あるを知り天下に公告して支那勞役者は米國より悉皆放逐す可しと宣言せしかゞ大に米國勞働會社の歡心を得たり然るにリポヴリカン黨即ち共和黨は此機を知らざりしを以て遂に勝をデモクラット黨に制せられたりと、其勞働者の米國社會に勢ある亦以て視る可し然るに我東洋に於ては此儕輩に勢力を有する能はざる而已あらず往々無耻無識の社會にして世事の何物たるを知る者あく特に結合團和の力に乏しきを以て絶へて勢力あることあし彼れを推し之を思へゞ轉た浩歎に堪へさるあり

電信電話の迅速あるは素より論を待たず雖も歐米相互に百般の事項を通信するの頻繁にして且つ機敏ある實に驚くに足るものあり、歐洲一日の出來事にして其午後六時迄に起りし事あらゞ悉皆翌朝五時配達の新聞紙を閲すれゞ容易に知り得る如き、是は各新聞社より歐洲各國に通信員を派遣しあるを以て其通信員より時々電話電信にて通信するを以て當國の新聞社は午后六時迄に聞得しものは必す其新聞紙に掲載するあり其の最大事件は夜分と雖も之を號外に印刷して讀者に配布す故に歐米事情を知るは恰も我か國に於ける一村落の出來事を知るに異あらす、千里外の歐洲の事實にして猶ほ此くの如し況んや內國の事情に於てをや、

政治思想、下等人民政治思想の發達、

政治思想　予久く支那印度地方に漂泊せし時には未だ曾て其下流人民に政治思想あるを見ざりき、然るに米國に來るに及んで其下等人民男女共に政治思想あるを見る誠に欽羨すべきの至あり、而して其の何故に東西洋の人民にして此くの如く思想の差異あるゝ果して何によ、

るやを推究するに是れ畢竟教育の普及と否とに起因せざるはなし、抑も東洋人民は教育の貴重あるを知る者少く隨て權利の貴ふべきを知らず甚敗きは金錢の爲めには貴重の權利を損傷するも恬として顧みるものあし故に政治思想も亦發達せざるあり、然るに米國人は上下共に教育の必要あるを知り、戸々、人々就學せざるはなく、大抵新聞紙を閲讀する位の學力あきはあらず、是を以て、人皆坐がら宇内の事情を知り隨て政治思想を有するに至りたるあり、余屢々試みに下等人民に接して甲黨は是なり乙黨は非ありと批評せしとありしに其人若し甲黨に屬する者あれば欣然として予か言を悅ぶも然らざれば勃然として怒り且つ曰く彼の黨い云々なり與みすべからすと語れり、亦以て其の政治に熱心あるを推知す可し

米國之青年懷の精神と學業

米國青年　予在米中最も意を同國青年輩の動止に注ぎ、其修業の情況を視るに年少者の在學中に勉强、切磋、學術の蘊奥を究むるに孜々として毫も怠慢あるあし然れども亦此れと同時に心身の保攝に意を注ぎ少も之を忽にせるが如きとあらず、求めて時に山野を逍遙し以て新鮮の空氣を呼吸し、時に又河海を跋渉して精神を活潑あらしむ、故に學業大ひに進んで心軀頗ふる健康あり且つ他日各自から從事すべき業科に就ひてい其全力を注ひて餘す處あし、又青年の間にい平生互に協會を組織し共に與に其の精神を練磨し其智識を交換するを以て目的とす、是を以て其學成りて實業に從事するの後も亦其學識の靈活ある能く其功業をして盛大あらしむるを得、元來此國の人民い其政府い人民の爲めに設けたるものにして人民も亦其の責に任すべきを知る故に自から出て、兵役に服する青年あり若し不具にして不合格たるに於てい大ひに之を耻るの風あり其の愛國の精神厚くして國民の義務を思

ふの深きと如斯是れ亦其國敎育の善良なるに職由せざんばあらざるあり

予ハシカゴ一の農學校に入學せしめられんとす、

予當地なる此某紳士の家に在りし時、紳士の朋友來り予に勸告すらく、子若し農業に從事するの希望あれば予子をしてシカゴの農學校に入學せしめ他日某原野方三里を政府より無稅にて十年間借用して、以て開拓の業に從事せしめん然るときは子は他日富裕の士となるを得べし豈に良からずやと、予之を謝して曰へり、厚意洵に辱なし、然りと雖も予の本國未だ文明の眞域に達する能はず政治上社會上の事業改良開拓すべきもの極て多し而して予も久しく歐米の文化を慕ひしと雖ども亦貧にして巡遊するを得ざ今漸やく賤業を執りつゝ來りて此土に遊ふを得たり、而して其來遊の本意は務めて歐米文化の眞相實況を視察し他日皈國の後我東洋をして大ひに改良進步以て歐米に駢駕せしめんことを心潛かに期せるなり、予は未だ一個の安樂を貪り他國に富貴を求むるの遑あらざるを如何にせん、敢て貴意に逆く請ふ之を恕せよと、氏之を聞き欣然として曰く子は誠に愛國の士なり予は日本に子の如き愛國者多々あらんとを祈るなりと、言終りて談他に移れり、

予と予か當時の主人に於ける關係、

予、此地に來り、彼の某紳士に仕へしこと殆んと六ヶ月の久しきに渡りたりき、然れども當紳士は予か漂客を以て敢て怪しまざ時に予を信用し種々の雜務を命し永く庖厨の職を執らしめざりき、此を以て予は甚だ其身の自由を得、同氏の宅に宿すること始めの三ヶ月間に過ぎざして余の三ヶ月間は全く外泊を許されたり、而して予は常に紳士の餘暇には必らず俱に雜談を許されたり、右等の事由を以て予は當家に出入する諸紳士に親しむ事を得、又主人より二三の紹介を與へられたる等の理由を以て幸ひにも諸紳士諸名士の門を叩く事を得るの便宜を獲

たるのみあらず、之が爲めに當地紳士等の私行上に至る事實をも知覺するに至りたりき、

予ハ此を以て當家の業務の餘暇にハ四方の名士を叩きて政治、教育、並ひに商業上の意見を聞くことを得て屢々感嘆せしことあり又夜ハ學校に通學して殆んと餘暇あらざりき、

（ニューヨーク府知事ヒール氏との談話、）

一日予ハ當時紐育知事たるヒール氏の門を叩き其面會を得たり（始めヒール氏ハ予が一時の主人ある某紳士と交り親しく常に相往來せられしを以て予ハ氏か當家に來りし節ハ異日參館の上種々高説を伺ひたしと話せしに氏ハ莞爾として何時ありとも來れ對話すべしと許されたる前約に因りて容易に面會を得たり）乃ち問て曰く我日本の歐米各國と條約改正をなすにハ如何して可ならん乎、氏嚴然として曰く予熟ら思ふに日本は元歐米各國と同時に條約を爲したるに非らず唯我米國と條約を結ひし後之を標準として以て各國と締盟せり故に予今貴國の爲めに之を謀るに貴國各國と同時に條約改正せんと欲するハ得策に非ざるが如し、若し今貴國が各國と條約改正を爲さんと欲せハ先づ貴國最も親好ある國に就て條約を要求せハ彼れ必ず其要求を諾せん然る後ハ各國も亦順次其意に應すべし斯の如くせは貴國は容易に條約を改正することを得而して各國と對立の國と爲らん足下其れ熟慮せよと、余又問て曰く東洋人民に自由を與ふると如何、氏曰く東洋人民は歐洲人民の如く政治上に艱難辛苦を嘗めしことなく政治上の火を知らず、政治上の血を知らず、故に未だ自由の眞價を知らず、此を以て其臣民の腦髓に感觸することも亦彼我大ひに差等あきを得ず、且つ又獨り之が人民のみあらず、即ち其政府も亦政治上に關して人民より嚴しき嘆願を受けたるとなく、勵げしき請求を起されたることあきを以

（我國の條約改正に對する締盟方法）

（東洋人民の自由を享受するに當り政府の注意と人民の覺悟）

て、政府ハ若し人民をして自由を得せしむれば人民必ず政府を轉覆するに至るの憂ひあらんと恐怖し當局者は敢て人民に自由を與へざるにハあらざるか此くの如くんバ是れ則ち両者共に失計と云はざる可からず、如何とあれば自由の人民に於ける猶ゐ魚の水に於けるが如し魚一日も水無くんば生活する能はず人の自由に於けるも亦然り今予貴國の爲めに考ふるに貴國の人民は歐米人民の如く自由を渇望するの精神あるが如しされば、貴國政府にして人民に自由を與ふるとも人民は其の政府を轉覆するが如き虞は是れ一片の杞憂に過ぎざるべし、果して然らば則ち當局者は必ず人民に自由を得さしめすんばあるべからず、人民も亦奮つて中古歐洲人の自由を渇望せし如くせんバある可からずと、予其公論に服し乃ち謝して旅寓に皈れり。

其後居ること數日にして偶々米國上院議員ヒスコック氏の華盛頓府より皈鄉し紐育に在るを聞き乃ち之を亦我が某紳士に謀りしに幸ひ亦ヒッコック氏ト舊友の交りある由を以て直ちに紹介狀を賜ハりたり、予ハ之を懷にし往きて氏ヨ謁を乞ひ、問ふに米國政治上の狀態如何を以てせり、氏曰く米國は古來より歐洲各國と其建國を異にし人間に位階あるものなく人心自から卑屈あらず、故に今日匹夫あるも一朝天下の公望を得るに及ひては忽ち一躍して大統領たるを得べし彼のガーヒールノ如き、リンコルンノ如き、グランドノ如き、其他幾多の諸名士皆然らざるあし、此を以て官吏も人民を輕侮せず、人民も亦官吏を畏怖するあく、人々唯其學識あきと其身の修らさるあらんことを之れ憂ふる而已、而して吾邦人は皆又能く教育を尊重す、假令歐洲或部分の如く吾教育は最高度の域に達し居らざるも我を以て彼と比較すれば米國の教育は彼れが如く下等社會に及はざるが如きに非らす、小民に至るま

米國上院議員ヒスコック氏の米國政治上の狀態に於ける談話

て皆相應に學を修めそれ〴〵政治の思想を有せり、之に依て考ふれば彼が如く深遠高尚の學理を講究し却て一般人民に適當せざるより寧ろ一般人智の開發して以て社會必要の方針に嚮往せしむるの勝れるに如かざるあり云々と、

同氏の米國政黨に於ける談話、

又曰く弊國には政黨二派有り一を分權黨と云ひ一を集權黨と云ふ然して其分權黨の貿易上に於ける政略は自由主義よして、集權黨の貿易上の政略は保護主義あり、又奴隷廢止の主唱者ハ集權黨にして非廢止の主張者ハ分權黨とす、然れども公民權を有するものハ何人を問ハず、タトヘ、奴隷なりと雖も政權に干與することを得と爲し、奴隷に政權を許與せしものハ實に分權黨にあり現にクリブランド氏大統領の時インガルなる人を「セチーターー」即上院議員に入れたる如き是あり、而して之に反せしものハ集權黨とす、此くの如く二黨相立ちて而して弊國人民は大抵此の二黨の中何れにか屬せざるはあし、此を以て大統領撰擧の時には財産を惜まず職業を拋ち偏へに自黨の爲めに日夜新聞に演說に遊說に奔走盡力し務めて黨勢を振張し黨員を增募するの外他事あるとあし、是れ他の故に非らず若し他黨をして勝利を得せしめん曉さには政略頓に一變して又自黨の冀望を達する能はず從來の辛苦經營ハ皆水泡に歸するを以てあり是れ我米國政況の概略ありと反覆丁寧に米國政況の一般を說き示されけり、

分權黨と集權黨、

予一日又コンチチカット州のエール大學校總理ツウハイドナモシーエール大學總理ツハイドチモレー氏が紐育に來つて文學上の講義あるを聽き、其通券を求め得て講義席に臨む氏の講演中予をして大ひに感せしめたるものありしかハ翌日氏の旅館を訪ひ敎育の方針に就て談せられんことを乞ふ、氏曰く敎育の事一々之を論する時ハ一日の能く盡すべきに非すと雖も之を略言す

氏の敎上に於ける意見、

れハ第一小學校ハ干渉主義を以て一般學齡兒童をして就學せしめざる可からず、第二人にハ天賦の才能あり而して其才能ハ限りあり若し各人をして宇內万般の學業を修め究めんと欲せバ其の腦力堪ゆ可からず必ず好結果を獲べからず故に小學以上の高等學校ハ皆專門たらしめ生徒をして專一に其の歸向する所の業を勉勵せしむるを可とす、而して之を管理するにハ道德善良にして敎育に熱心なる人を擧て其の任に當らしめ、自由敎育の方針を取らしめバ其有益なる人才を輩出する期して待つべきなり、若し之に反して地方官の如き行政の任務ある人をして其管理に與らしめバ其の敎育ハ必ず紛雜にして其の成効期すべからず、是れ尙ゝ船夫にして機械の任に當るが如しと予窃に氏の說の能く肯綮に中れると感じ、乃ち別れて飯れり、

米國婚姻の狀況、

婚姻　米國婚姻條例ハ男女二十一歲に至らざれバ婚姻するを許さず既に二十一歲に滿つれバ男女互に如何なる者と結婚するも其欲する所に任せ父母親類朋友と雖も之を制止するの權なし故に男女互に自から偕老の盟を結ひ琴瑟和樂の自由を得るなり我日本の風俗ハ之に反して男女互に夫婦たるの約を結ふと雖も父母之を欲せざる時ハ其伉儷たるを許さず又男女互に夫婦たるを悅バざるも父母之を欲する時ハ强制して婚を結ばしむ故に夫妻の間動もすれバ相諧ハざるを爲めに一家の風波を起すに至らしむ之を米國の自由婚姻に比せバ其得失如何そや

紐育富豪の一紳士ゲヨンロー氏の死

予在米中紐育富豪の一紳士ジョン、ローなる人の病死ありたり氏ハ元アイランドダブリン府の人なりしか幼にして父母を失なひ、家貧にして生計に困しめるも親戚の寄るべきなく、賴むべきものなく、落魄彷徨定居無きこと二周年、偶々米國に航する便船あるを聞き行ひて其船長

同氏生前の經營

に同伴せんことを乞ひし時、船長の、汝幼稚の身を以て米國に遊いんとす必す親戚朋友の寄るべきあらんとの問ひに對し、氏答て、吾既に父母おく又親戚朋友おく目下生活するを得ざ故に米國に航して一事業に就き以て糊口を爲さんと欲するのみと曰ひしとぞ、船長い其の情願を憫れみ遂に伴ふて米國に渉りしが、氏時に年甫めて十二歳おりしと、而して既に此國に着せしも嚢中一錢の貯おく又寄食すべき家あるおし、然れとも氏い大胆にも敢て志を屈せざ漸く一大工の弟子とおり日夜強勉怠らさりしかバ久しからざして其業に通じ遂に氏い師の家を辞してボストン海軍造船所の雇吏とおり其間氏い又專ら節儉を行ひ終に多少の儲金をおすに至れり時しも紐育鉄機製造場の株券を賣却する者あるを聞き試みに之を購求せしに幸ひ之か利潤を得たりしかバ爾來益々奮發し又同株數千株を購ひ遂に同製造場は全く氏の有に歸

下等勞働社會の生活

するに至り同時に氏は造船所管督の長に轉任せしと、氏は此任に在ると數年にして又二ヶ所の鉄機場を購ひ其の財産を增殖すると四億餘万圓に至り忽ち大富豪家とおり六十餘歳を以て逝けりと誠に氏の如きは膽畧傑出の男子と謂ふべし

勞働社會の生活は一日五十錢以上にして、其食する重おるものは、珈琲、茶、牛乳、牛酪、乾酪、牛肉、鳥肉、ジャガタラ芋、野菜、米、パン等おり、而して朝飯に珈琲、牛乳、牛酪、牛肉、ジャガタラ芋、パン、魚等おり、晝飯は豕肉、鳥肉、魚、卵、チョコレート、海鰌の類其他數種夕飯はパン、茶、牛乳、牛酪、乾酪、牛肉、鳥肉、ジャガタラ芋、菓子等なり尚ほ其外數多の食品を需用すと雖も日々變更するを以て之を例する能はず、而して其賃金は一日五十錢より四圓位に至るあり、日傭人の賃金は其技能に因りて同しからずと雖も大抵一時間三十五錢より五十錢に至る通常一日の勞働時間八時間乃至十時

間あり、尤も各地物價の高低に因りて相同しからざるも大概如此と云へり

米國紳士紳商の私行内情

予は在米中同國人の私行内情上に眼を注きて深く之を視察したりと雖も、其表面文明の服を裝ひ自由の花を飾すと雖も其裡面を穿ち來れば又言ふに忍びざるもの多し、こゝを以て、予は特にこゝに其隱微の點を擧示せず一二彼邦の一般に渡る反語せば半顯半秘の卑情を擧けで當米國の見聞記を畢へん、一夫一婦の制を採り、一夫多妻は堅く之を禁せるものは米國の習律とす而して文明國の眞相は亦實に斯くあかるべからざ然るに此眞相は蓋し表面上の事のみ紳士社會の内幕に立ち入れば甚だ感服せざるもの多し、彼等は三伏の節に於て又冬寒の候に於て之れか避寒之れか消夏には必らず美人を携へさるはなく而して其美人は宛かも妻に異あらず之を稱してスサートハート情夫情婦と云へり而して此くの如く遊行するの資力あらずものと雖も尚ほ外妾を置かざる者殆んと稀なり又特に予は下流社會の事情を詳知すと雖も實に記するに忍びず今日本に於て日本人か如何なる弊風の彼れに存するにやと唯想を追ふの比にあらざるを讀者に一言するを以て足れりとせざるを得ず、噫米國の文明進歩如此くにして猶且此の惡習を免る能はず誠に彼か爲めに之を嘆惜せずして可あらんや

合衆國聲名の因りて發する原因

予は殆んと一年間支那、安南、サイヤム、ビルマ、印度の諸洲を歷遊し椰子樹蔭に頭を横へ薇蕨蕃薯に其口を餬す尺餘の布巾其腰間を纏ふの外住むに家なく着るに衣なく探るに業なく、求むるに職なく赤鬚の節に其哀を求むる無智曚昧の悲境を目擊し又羈旅遠客の徒口に博愛を唱へて身は獰獅の慾に滿ち酷薄殘忍を事とせる其慘情を實

見し一日も早く東洋の振起せざるべからざるを感起し其間たゝ慷慨悲憤の情に繫かれつゝありしか身ゝ印度洋を去り喜望峯を經て大西洋に入るや意氣始めて清爽を回し夫の米國の宇内に雄飛する原因を觀破するの快亦近きにあるべきを思ひ我ゝ我が日本將來の傾向ゝ如何ある點に模倣すべきか如何ある氣格如何ある風習こそ我が日本に輸入するも利ありて害あさや又果して彼の紳士紳商の歷逝を得て旣朝するの日喋々せる如く純良質實なるもの存するや否や或ゝ之を正面より裏面より又側面より斜面より種々ある觀察の方法を採らざるべからゞ、而して能く其の目的を達し得るや能く其隱微を貫穿し得べきや思へゞ其任甚だ重く其業甚だ難し予が淺才無識ある能く其觀察を完うし得べきやと兎や角是等の妄想に魅せられつゝ彼の土に到着し先づ始めに合衆國と云ふ名に就き又自由國たる副詞に就き、又建國以來の歷史に就きて注意を用ひ其數日間ゝ其市街の四通八達馬車に鉄道に紛々擾々たる光景に眩惑され其家屋の稜々として空を摩し層々巍々として天を衝く華麗豪奢に心目を奪ゝれ又貿易製造等總て正面上の觀界に於てゝ一として其熱鬧繁盛に驚かしめざるゝあし此に於てか予が天涯孤客の豆大一粒的の身を以て恰も群蟻の其巢屋を壞されて右往左往せる有樣ある中央に立ちて如何にして其裏面的の有樣を視察すへきかと云ふ問題に至りて殆んと予をして大に苦しましめたりき然れとも斯くして有るべきに非らざれゞ或ゝ「サウス」街に入り或ゝ忽ちに變体して「ルブヒヤン」即ち「ゴロッキ」の仲間に交り或ゝ乞食の如く異裝し或は時として女郎屋の內幕を窺ひ或ゝ時としてゝ居酒屋に入り下等勞働者と俱に飲食を試み或ゝ時として荷物運ひに雇はれて彼等

勞働の模樣を探り又或る時い相當の商賈の内に入りて料理人とあり小使人とあり勞苦を忍び、辛酸を嘗めて下情を知るに務め終に靠の取り方に至るまで學ひ得たり然れども尚之を以て滿足せず、知人に伴いれて舞踏會に赴き又業務の餘暇を求めて夜學校に入り又或る時い忽ち一紳士の服裝に改め、時として市女に交りて演劇場に入り又教會堂に上りたり其他或い新聞紙を又雜誌を購讀し幸ひに僅々十ケ月間余に於て合衆國全般の現況を察するを得たれば之を以て米國將來の狀況を想像し得て敢て思ひ半ばに過ぎざる如きことあきを得たり然れと米國の人心あり氣習あり風俗ありい我が國人の概ね知了する所あれば敢て其詳細の叙次に及ばざりき是を以て予い其社會の裡面的隱微の奇俗怪風の一二を摘記するに止めんと欲す、而して讀者幸ひに是れ實に前述の如く幾多の勞苦を經て看破したる事實あるを了せられんことを思ふに現今亞米利加合衆國の世界中に於て富强國と見做さるゝに至りたる所以のものい宗教の力に由りたるにもあらず兵力に由りたるにもあらず工學力に由りたるにもあらず其建國以來一の階級あく一の門閥あるものあく而して其社會の人民い自力其富有を致さゞ王公將相其望に應じて取りて代いるを得るの競爭自由實に其富國の基本たるものあり故に夫の廣漠たる野も山も其大富財い我れ得て我が有たらしめんと期する觀念の其人民に存するを以て合衆國の民心い一に「富」ある一點に傾けるあり而して合衆國い英國の如く局瘠あらずして農產物も其土にあり鑛產類も其土に在り、海產物も其沿海に在り、森林も其山に石油も其土に水の如し、此の精神ありて此の產あり是を以て富まざらんと欲するも豈得べけんや是れ

實に予か純樸なる言葉を以て現したる米國致富の因りて起る所以あり凡そ何れの國、何れの世何れの人と雖も金力あれゞ自ら威力ありと予ゝ之を米國に於て予を欺むかざるを知る、一個人に於て一家に於てのみならず一國に於ても又國と國即ち國際間に於ても其國富强の基本ゝ兵力によるよりも寧ろ富力に由るものと謂可し蓋し共和政体のみならず立憲政体たり如何なる政体たるを問ゝず腕力の如き學力の如きゝ抑も末のみ、是を以て苟も國權を夸張し國威を燿煌たらしめんと欲せゞ必らず先づ富國策を講ぜざるべからず現今並に將來に於て國家隆盛、國權炳赫を致する一大要素ゝ唯一「富」に由らずんゞあるべからざるを信ず

米國現今の實狀誠に此理に順據せるあり彼ゝ陸軍の武力によりて其勢力を保たず、彼ゝ海軍の威力によりて其威光を得たるにあらず彼ゝ學術旺盛の故にも由らず彼ゝ宗教の信仰にも由らず唯富力に是れ賴りて然りしあり一國の大勢を料理するもの須らく鑑みるべきなり

然れとも合衆國の外國に對して好評を得たる所以ゝ唯だ夫れ富力の一のみにもあらざるなり夫れ然り、然らゞ其理由の他とゝ何ぞや曰く平民主義是あり曰く宗教主義是なり斯の二者相俟ちて富力を助長せしこと是あり宗教主義ゝ較々習慣的に由り自然其國風を成せり而して平民主義ゝ建國以來の一風格あり是れ合衆國の世界に强大を以て鳴るの第二の原因あり、然れども其宗教の如きゝ既に弊害を生せり其牧師或ゝ傳道師ゝ(悉く然りとゝ言ゝざるも)サンフランシスコーに於ても、ボストンに於てもニューオリーンスに於てもフヒラデルヒヤに於てもワシントンに於ても或ゝ豪家の令嬢を欺

き或ハ富商の夫人を詐り言ふべからざる醜行を施し時に遠隔の地に逃走し又隱匿せざるを得ざるに至る怪聞の予輩の耳朶に達することゝ、たゝに數度に止らざるあり又其風俗に於てハ一般に我か道德に背き風敎を紊亂せるもの甚た多し、大抵豪富の夫人即妻君にして其情夫を持たざれハ無氣力ありと云ふれ紳士にして外妾を持たざるものハ才士と云ふを、故に嚴寒の季にハ美女を携へてスイスのゼノバに遊び、酷暑の節にはグリーンランドニ行く而して是れ貴夫人社會のみあらず下婢の如きに至りても亦然り以是て彼社會の諺に「ゴールド、リング」即金の指輪一個にて大抵夫婦の約を整ひ得」と是れ實に予か其裏面社會に入りて親しく目擊したるものなり予ハ尙之を我か社會に於て口外するを憚るを以て多言せずと雖も妓樓に於ける或る一種の習俗の如きに至りてハ殆んと之を口外するに忍びさるものあり其醜行の甚しき實に豫想外にあるあり此の如きを以て彼國の宗敎ハ決して人心を支配するの勢力を有せず其信仰を惹くべき威力を欠けり人あり米國宗敎の威力を說くものありと雖も是れたゝ道德家の一部分ゝ止るあり、若し然らずんハ正實ある牧師又傳道師及ひ學者の一社會に行ハるゝのみ而して徒らに新聞に雜誌に、演說に於て喋々するのみ而して一般の社會ハ之ゝ冷淡たるのみならず、正に其道敎に反對して而して怪しまざるの有樣あり若し予か說に疑念を存するあらハ無用の辨を費すを俟たず、乞ふ自ら彼れに渡航し其社會に投しあハ、尙一層豫想の外にあるを知るを得ん因之看之に合衆國に於ける宗敎の威力ハ自然日を追ふて退衰に赴き遂にハ或る習慣の外宗敎の實ハ人心を拂つて去らん然れとも米國將來の勢力ハ實に富財と之に對し得ハ即ち學術の二者を以て益

〻々炳然たるを得んか我か日本の如き幸ひに道德の敎へ强く宗敎心亦甚だ厚く風敎の美、決して泰西の諸邦に劣らざるあり而して我か日本全土の位地既に虎踞龍蟠の中心を離れて遠く東洋の端に泰然たるもの何んぞ實力外の腕力を要せん何んぞ民力に過ぎたる兵備の多きを要せんや、是れたゝ四境を守るの用に足らゞ可あり蓋し我か富强を謀るの籌策ゝ唯た富國策の外に出でず所謂富力を發暢するの他に良策あるを信せざるあり一國の人士希くゝ潛計する所あれ又特に米國人ゝ政治思想を有せざるものあく一般に其思想の旺盛を見ると雖も我か日本の如く專門政治家あるものあし日本の將來を憂うるもの心せをして可あらんや豈心せをして可あらんや」

二月十日、米國を發す

第三篇

歐羅巴義國

伯耳義國

予紐育に在りしこと既に半歲餘を經過せをかゞ正に歐洲に遊ばんと欲するの意ありき時に偶々一友人來りて告げて曰く子ゝ常に歐洲に航せんと欲するの意を談せしか今尙其意切ありやと、予ゝ直ちに應じて固より僕か歐行の志少しも變せずと雖も不幸にして未だ彼の旅費を得る能ゝを此を以て直ちに彼地に遊ふの機會を得を今尙は此土に足を留むるゝ止むを得ざるに出づるありと答へしかゞ友人語尾に接して曰く否、是れ甚だ患ふるに足らず、予が知れる米船あり近日纜を解きて歐航せんとせり、子若し勞働を忍ゞゝ僕子を船長に紹介して同伴を請求せん、と、予ゝ其厚意を謝し遂に友人と共に該船長を訪ひ具さに

事情を語りしかゞ船長快く予か請を諾し乃ち予に謂つて曰く、恰も好し我船明曉を以て出帆せんとす子速かに其旅裝を調へ來れと此に於て予い直ちに謝して友人と同じく旅寓に飯り親しく永日の懇親を謝し、又學校に至り又走りて、先の主人某紳士の宅に至り、種々訣別の意を告げ、其夜當地に於て知遇を得たる友人等にい夫々決別の書狀を發し翌未明該船に投じぬ時に二月十日あり、此日紐育を發して歐洲白耳義アントウハプ府に向へるあり己にしてサンヂフーン岬を右に望みロングアイランドを左に眺め紐育を黑烟と共に遠く背後に遺し轉た名殘を惜みつゝ甲板の上に立ちて西の方水天髣髴たる間を徘徊顧望しあから大西洋を東に向て行けり、行くこと一週有余日にしてアイヤランドの南方に至る時に忽ち颶風の起るに遭ひ爲に舵を損し運轉自在あらざ遂に針路を失し洋中に漂搖せること殆んと旬日、船長己下一行

ワイド島を望む、

白耳義國アンバス港、

咸あ絶望落膽して涕泣するものあるに至れり良久ふして天霽れ風收まる此に於て予も亦再生の思を爲し天に向つて謝したること數回あり、船長水夫に令して曰く網を以て舵を縛るべしと水夫等直ちに其令に應して之を縛し漸やく針路を東方に執ることを得行くこと數日にして「ワイト」嶋を遠く左方に望めり此嶋い昔時英王ナヤールス一世英國革命黨の擒にする所とありたるを以て今に有名あり夫より尙ほ進行するに東南佛國「カレイ」市を遠見し、北に「ドバー」市を眺め「イングリス」海峽を經、佛國北方の南岸に沿ふて東に航す「ブルゼス」市を左に見つゝ「エスコー」河を溯り、行く、北岸に堤坊あり土人之をダイクと云ふ此ダイクい海水の浸入するを防ぐ爲めに設けたるものにして常に機車を以て水を汲除す既にして又「アンバス」を遠望す此港口に保砦あり甚だ堅固あり須臾にして「アンバス」に着す「アンバス」い邦音にてアントアプい

アンバス港市街の概況、

蓋し英人の稱あり)乃ち上陸して市街を通觀するに街路廣大あらざると雖も両側に樹木を植へ中央に馬車鉄道あり其樹木の両側に人路を設く行通絡繹として織るが如し此鉄道馬車を稱してツロムウエルと云ふ、家屋ハ紐育の如く宏壯ならざと雖も大抵二層乃至四層のものあり、又有名なる高塔ハ市の北方にありて頗る壯觀なり、市の外廓北の河岸を除く外大なる堤防を築き八ケ所の砦門を設け常に數百の守兵あり

「ジライド」ツクーを見て我が横濱並に神戸の築港事業に感あり、

て甚だ嚴なり、東方エスコー河より入る所に船舶碇泊場あり該場ハ渾て人造にして巨大なる池を鑿ち其内部四方に船舶を碇泊せしめ荷物の運搬をなす尚は十數ケ所の造船所あり之をヅライドックと稱し常に船舶の修繕に供し又造船場となす是れ蓋し人造の最巧業にして甚だ便利なり抑も此府ハ中世紀にハ歐洲中心の貿易場にして甚た繁盛を極めたりしも英國宇内の商權を占てより以來復た中古の如く繁盛

美術館、

あらざと雖も尚は貿易樞要の地たり(予ハ此の「ドライドック」を見て、我が横濱並に神戸港の義に就きて説を立たりと雖もこゝ他日を期して詳論する所あるべし)予一日美術館に至り之を通覽するに實に予輩愴夫をしてすら幾多の感を惹くへきものあり就中ヴワンダイク氏の英王チャルス一世及び其家族の畫像又耶蘇の十字架に磔せられたる圖の如きは實に眞に迫まれり、氏は元アンバースの商人なりしも幼にして商業に從事するを欲せず遂に美術の師ルーウベンス氏に就て畫を學び久しからずして其蘊奥を究め、後ち英國に遊び英王及び家族の像を畫く王之を賞して金一万五千パウンドを賜へり而して當出品の畫ハ實に其賞金を得たるものなりと聞く、曾て米國より四十万圓に購はんとを申し入れしも國人之を諾せざりしと其妙品なる知るへきなり」

日本陶器販賣店に入る、

予市街を散歩し偶々一陶器商店あるを見る其看板に――日本陶器と

書せり就て其物品を縦覽するに一も日本品あるなく全く支那の陶器ありき、試みに予い乃ち主人に就て其の何れの地より來りしものなるやを問ひしに主人は其狀を知らずして皆な日本よりと答へたりき予い爲めに其の皆日本品に非ざるを説明せしかゞ主人愕然として曰く眞に然るか然れども余は此業に從事する既に五年全く日本品と信して販賣し且つ當地貴顯紳士も亦頗ぶる賞贊して之を購求せりと嗟是れ一市街の陶器店に係る事なりと雖も外人の日本の事情に迂遠なると同時に日本人の我國産を歐洲人に識別せしむる能はざるを思ひ少時嘆嗟に堪ざりき、

予は此國に來りし以來勉めて其人情習慣等の觀察に意を注ぎ、時としては下等勞働者に就て親しく其の情況を聞き或は紳士紳商の門を叩き以て方今此國の情勢等を探り得たりと雖も如何せん邦人は一般に

佛語を話し或は獨語より轉訛したる蘭語を用ゐ英語を談する者は僅々の商人あるに過ぎず又尤も水夫或は酒店の婦女等にして時勢を通談するに足るものは稀なり故に予をして一層其事情を究知するに苦しましめたりき、

富國殖産、人民之職業

人民職業　此國は土地平坦にして到る處開拓せさる所なし國中何れに行くとして農業の開けさるゝ無く國民の職業ゝ此農業と製造とにして特に絹布、綿帶、麻、布、牛酪、金銀細工、時計等の製造品ゝ歐洲各國に輸出して其精巧の名到る處に嘖々たり、是を以て兒女子と雖も其品物を看れゝ即ち伯耳義國製品たるを知と而して航海の業等に至つてゝ國民殖んと修むるものなし、其海上權ゝ英、米、佛、獨の諸國に委托せりと謂ふも過言にあらざるなり蓋し此國所有の船舶ゝ僅々二百余艘に過ぎず且又予が在外中其國旗の掲けたる滊船を見しこと甚稀れなりしを

以ても其航海業の盛あらざるを知るに足れり、石炭鉄鑛の數四百五十六個處ありて其採掘高一年七千万弗に及ふと云ふ、而して製造術のみに關する雜誌及植物雜誌等數十種ありと以て農業製造の盛大あるを見る可きなり

宗教、

宗教　此國ハ羅馬教を國教とあせり故に國人ハ大抵舊教を尊信す而して其メーリーの像を拜する如きに至てハ殆んと、我佛像拜信者と擇ふ處無し、予も亦屢々寺院に臨んて此を目擊せり、茲に於てか予は知れり此國人は未だ心靈の自由あくして猶ほ偶像の奴隷たるを免れざれを、嗚呼、歐土の中に於てすら尚ほ此風あり、亦以て嘆す可きあり、

教育、

教育　小學校は干渉教育の方針により滿六歳以上の者は必ず就學せしむ然れとも高等教育に至つてハ略ほ之に干渉することあく各自其好む處の專門學校に入るを得せしむるが故に特に此國は農學校製造學校及ひ美術學校等最も盛に行はれて技師多く輩出せり、就中美術の如きは歐洲に冠たり

政体、

政体　立憲政治即ち君民共治にして國中頗ふる靜穩順和あり蓋し輿論を重んじ輿論に抗して政權を濫用する如きものあきに由るあるべし然りと雖もベルジヤムは歐洲中に於て最爾たる小國あれば歐洲の新出來事に對して一も卒先する能はさ常に各國の後尾に附從して進退をなせり、故に政府も人民も方今歐洲に雄を爭ひ强を競ふ氣象あるなし

娼妓、

娼妓　娼妓は公許にして各市中に一ヶ處の遊廓あり外面上より即ち法律上より之を見る時は汚點あるに似たるも實際上に於てハ大に然らさるもの有り其理由は英國の部に於て詳記す可し

義勇兵、

義勇兵　當國人民は義捐金を以て各市に於て人民自から兵士を養ひ

貿易、

或は自から兵士とあるものあり、而して此兵士は毎日曜日は練兵場に來り相互に練習す其服裝の美あるは宛然佛國兵の如し是を以て練習の日即ち日曜日には老若男女の別なく貴賤打ち雜りて練兵所に來觀する者甚た衆し其隊伍を整へ市街を往行するや整々として極めて壯麗あり之を稱して義勇兵即ち民兵と云へり我日本も斯の如く早く義勇兵を養育するに至らんこそ願はしけれ

貿易　此國は小國ありと雖も歐洲の中心に位し四通五達の要地にして製造の業實に盛大あり各國に運搬するに鉄道を布設し其便あると歐洲中第一等に居れり、方今其落成したるもの既に一千八百哩に達し之を全國表面に平均する時は方一里に鉄道の布設二里半の長に及べりと、鉄道は總べて政府の所有にして其毎歳得る處の純益二千九百七拾余万弗の巨額に達し實に歳入の一要部を占めり、其陸上貿易の繁盛ある推して知る可きあり

三月十日予英紳士ウヰリアム氏に誘はれウチトルローの古戰場に遊ぶ

ウチトルローハアンバースより東南の方二十八里の處に在る原野あり、地勢平坦にして其中央に一小丘あり之をセントジョアン山と云ふ即ち之れに登り仰て其紀念標を見俯してウチトルローの蒼野を瞰下せり、當地は疇昔英雄の鹿を中原に爭ひたる地あるを以て克く人をして往古を追懷せしめ覺へず愁然として痛み喟然として嘆せり時にウイリアム氏予に告て曰く此碑は一千八百十五年佛帝ナポレチンの歐土を蹂躙するに當て各國其兵を被らざるはなく破竹の勢に乗し遂に歐洲を一統せんとす此に於て我英國各國と合從してナポレチント茲に會戰せり然るに佛國累戰皆勝ち我合從の軍大に破れ歐洲列國の軍將に瓦解せんとせしに只最後の一戰に於て我將ウエリントン公奮勇

有名なる「ウチトルロー」古戰場に遊ぶ、

血鬪我軍大勝終にナポレチンをセントヘレナの孤嶋に流謫し漸やく以て歐洲列國の運命を今日に維持し而して歐洲の形勢を一變して方今の安寧を得るに至りしあり故に全洲の人此碑を建て以て歐洲の安泰を万世に祝せりと噫ナポレチンの如き蓋世の英雄ありと雖も猶は其の時運窮するに方りてはセントヘレナの孤客たるを免れず又時運の臻るやウエリントンの如く忽ち歐洲將來の前途を安泰に置く嗚呼氏の功業も亦大あらずやと須臾にして日桑榆に沒せんとす此に於て歸路に就く

政治思想　當國人民は概ね其國發刊の新聞雜誌等を讀み之を是非するの知識を有せり故に各自其權理の重す可きを知る是を以て其政府を信任すと雖も又政府を恐れざ故に若し政府其職務を怠る如きあれば共同一致して之を非難し之を攻擊して又新たに政府を組織す斯の如き人心あるを以て政府若し久しく其地位を維持せんと欲せば務めて人民の歡心を得ざんばある可からず誠に此國の如きは下民恐く政治思想を有して已れの地位を知ると共に邦國即ちテーシ・ヨンあるを知る者と云ふ可きなり勞働社會の情況及ひ其生活の實況は殆んと米國に異なるあきを以て茲に之を記せず予が當國に在留中目擊せし處のもの之に止まらずと雖も其長きに互るを以て之を畧す既にして當國に留ること四十有余日にして去て佛國パーリーに至る

白耳義國獨立の源由を論ず

忽ち乞食となり、乍ちルフヒャン」となり、忽ち市人となりて社會の下情を探くり、時に賤夫と化し、時に異職の者と變し、以て酒屋に街道に彷徨して其の眞情を搜ぐりしと雖も、如何にせん僅かに英語に通したるのみあるを以て、其俗語を解する能わざ、隔靴搔痒の憾みに堪へ

さりしと雖も、聊か過去の歴史に由りて伯耳義の現今及將來を觀察する時ハ即ち左の如し、

往昔當國のホーランドノウサリアム、オレンヂ侯ガスペインの羈厄を脱して獨立せし以來合衆「ニウゼランド」國を組織し以て歐洲諸邦を睥睨せしが、此の時に當りて歐洲の草木靡然として震慴せざるなく其アントハプ市ハ貿易の中心とあり孰れの物品と雖も此地を經るにあらざんバ決して市價を得る能ハざりし、然るに歳移り、星更り、今や伯耳義と荷蘭の二ケ國に分離し、而して萎微振ハざ、漸く其社稷を保維するに過ぎざる有樣と化せり、然りと雖も、榮枯盛衰常あし、彼必ずしも沈淪に打過ぐべきにあらず、特に彼の奈翁の侵略を蒙り、三十年の歐洲戰爭の擾乱にかゝり謂ふべからざるの困難を經過したりしと雖も現今依然として歐洲強國の間に介立し、其國權を維持し得る所以のものハ何ぞや、是れ彼れが自立の性尚浮如たるに因らんバあるべからず、蓋し予輩之を思ふに、彼か積衰の後を稟けて而して尚營々たる所以のものハ寧ろ歐洲の形勢其物の然らしむるものあるを信ず、何んとあれバ獨乙にして當國を得んか佛國如何にして歐洲に對せん、佛國若し當國を侵さんか、英國如何にして歐洲に對し國力を振ふを得ん、此に由りて之を考ふる時ハ小弱國の歐州に介立し得る所以のものハ唯是にありて彼に在らず、世に所謂「バランス、オフ、パウワー」の然らしむる所なるか、夫れ然り、然りと雖も、當國々民にして何物か其國權を保維する點に於て其特因あくして可あらんや、今統計表に因りて見るに、世界の最も多數人民を一方里内に有するものハ實に當國あり、而して如何にして此多數の人民の生活を探れるかの探究是れ一問題あるべし、蓋し此問題に接しなバ何人が當國

人民の性情に不信を抱くものあらざるべし、誠に當國人民の能く其業務を勵み、以て其生計を安んし、農に、工に、商に其道の開けざるなきゝ其實際に於て是を見る、果して然るか然らゞ即ち何故に當國人民の懦ふて其業を營み、其職に勵めるか、其依りて來る原因あくんゞあるべからず、借問す、其原因とゝ何ぞや、宗教の力あるか、曰く然らず、軍力あるか曰く然らず、學術あるか、曰く或ゝ然らん、然りと雖も當國の學術ゝ決して高等の學術を以ての故にあらず、又實に高等の學術を以て下等人民を導くべきにあらざれゞあり、當國の人心をして勸業勵商の方針に赴らしむるを得たるものゝ唯だ普通教育の力是れあり、夫れ普通教育の德たるや克く人心を誘掖し、開發し、融化せしめ以て安心立命ゝ何に由て得へきかの感想を解かしめ、各人生活の要を知得せしむるにあり、苟くも、人、其安心立命の地位を丁するなくんゞ、又生活の途を求むる所以を知らず、人皆生活の法を知らすして其國存するものゝ未た曾て有らざるあり、之に反して當國宗教の如きゝ一に人心の支配に其道法を有せす、唯だ永年の習慣より由て之を信崇すると雖も所謂死信のみ、其道法に於ける亦既に然り、如此くにして而して其國の命脈を保全し、如此くにして其民の性情を振暢せしむる所以を思ゝ、是れ一ゝ現今歐洲列國の大勢之をして然らしむると、又一ゝ國民の其業に孜々懈怠あきに因るものたるを想起すべし、軍力あく、又海軍の力なくして鴟梟の間に伍するを得る所以多言を費さゞして思ひ半ゝに過ぎん、此に由りて之を思へゞ國家兵力の强盛を俟たんとするゝ抑も其道にあらず、國民教育の方策是れ最大緊要の途たるを信ず、人の立法者たるもの、人の主治者たるべきもの深く鑑みずんゞあるべからず、

佛國

佛國に入りハーバー府に在留す、

ハーバーハセイン河口の北岸に在る佛國第一の貿易場にして特にパリ府咽喉の要地たり、故に河口には堡砦を設け、市の中央に鎭臺を置き、傲然威力を外に示せり、當市街は廣濶にして廈屋も亦宏壯あり、此地よりパリに至るの滊船滊車の往復常に絶へざる、其運賃は上等僅かに四弗あれば此地に來遊する者必ずパリに遊行す

府内の景況、

府内の模樣及び學校、製造所、病院、機械場、造船所、官衙等の見る可きもの甚だ多しと雖も今一々之を記するを要せず、當府民は重もに製造貿易を業とす故に佛國に於てマシヤルボールドと等しく貿易繁昌の地たり子や佛國の古來歐洲の中心にして人民の活潑なる精神に富み常に文明の卒先者となるの氣風を慕ふと茲に久し、ギユイ氏曾て曰へるあり曰く佛國民が常に歐洲文明の卒先者たる所以のものは、國人の純良社交心同感的の精神あるに起因せりと、夫れ然り故に予の佛國に到るや勉めて佛國全般の狀況に眼を注ぎたりしも如何んせん予は英語の外は會話する能はざるを以て弘く人民に接して深く其情勢を知るに由なかりき、是を以て時に其妄撰を免れざる詩ふ之を咎むる勿れ

佛國の農、工業、

佛國は大概土地沃饒にして北方は特に開墾行き屆き桃、梨、栗の菓物に富み穀物の產出及び牧畜の業甚だ盛んにして南方は養蠶の業又頗ふる開け特にリチンの如きは其中心あり、又葡萄の培養も大に行はれ、鉄、石炭、及び銅、銀等に富み、而して其採掘高毎歲一億二千万弗に及べり、其採掘所は全國八百七十余ヶ處に及ひ之工業大に進歩し製造の盛なるは歐土中其高位に居るべし、花氈の製作は精巧美麗を盡せり而して毎日十二三名の工夫をして一箇の花氈に從事せしむるに七八年を歷て始めて成工するものありて其價數万

一個の花氈製造、七八年を費す、

弗ありと亦以て其良品を製成するの精神と其人民奢侈を極むるの一端を知るに足る可し、猶ほ其外製造品に就て記す可きものありと雖も之を畧す、而して方今佛國民の生業ハ先づ製造及ひ農業商業等ありと謂て過言にあらざる可きあり故に東洋の如きも早晩各專門學校を設け而して製造に、農業に商業に工業に從事せしめざんバある可からざ

政体、

政体　當國ハ共和政体にして時に數々大頭領の更迭ありて政治の變遷極まりなし予以謂らく佛國ハ古來君立國ありしも今ハ則ち共和の制に循へり、若しも此國民をして正統の帝王を立てゝ之を奉せしむれバ或ハ其變遷無かる可き歟、蓋し米國及ひ瑞西等ハ同一共和國にして而して國民鎮靜ある所以のものハ畢竟其建國を異にするに因るあきか、されバ佛國民にして將來其國の平和を欲せバ宜しく立憲君國の制を復するに若かざるあり、世の先進者妄りに其國風土に適せざるの政体に摸倣せんとするもの深く佛國に鑑みさる可からざ

宗教、

宗教　此國の人民ハ大概舊教を尊奉せり然るに政教ハ全く分離す可きを論し餘に外面上に於てハ之を分離したりしと雖も實際に於てハ大に然らざるものあり、何んとなれバ海外布教の爲め政府より保護金を仰くが如き事あれバあり、然れども特に有名あるフレーラー氏の如きハ熱心既に此事の非を論して國中に甚だ勢力あれバ早晩此弊害を脫却するに至る可し若し然らざれバ其國の禍亂も亦是より來す可し此國に於てハ宗教ハ却て墮落せしめて文化に裨益するの功あく道德の腐敗を挽回するの力無きが如し佛國の如き有様に至らバ宗教の本旨何れにあるや予以爲らく佛國舊教ハ既に腐敗して人心を善道に保持するに足らざ世の舊教信者早く茲に鑑みざんバ邦國を益するとあ

佛國宗教の弊害、

娼妓、

娼妓ハ公許にして各市中に一ケ處の遊廓を設けあり而して尚ほ賣淫するものも亦甚だ多し腐敗又腐敗實に云ふに忍びざるあり一例を擧れバ商店に居て來客に接するハ大抵皆二十歳前後の美婦にして彼等ハ時に由り場合に由り賣淫せざるものなしと云へり、予も亦屢々此弊風を目擊せしことあれども詳らかに說明するを欲せざるあり、噫、文明を以て天下に稱せらるゝ歐土も亦道德の風備ハれりと謂ふを得ざるか、

教育、

敎育　佛國は小學校の如きは白耳義の如く甚しく干涉を以て就學を勵昌せず、故に下等社會中にハ聞々無學者あるを見る此れに由て之を見る時ハ到底下等社會の如きハ干涉敎育に非らざんバ決して敎育の普及を見る能はざる可き歟

佛國自由黨、

予ハ我が國に在りし時より豫て佛國自由黨總理クレマンソーの名を聞き居りしを以て佛國漫遊の節ハ是非其謦咳に接せんことを心潛かに願ひしを以て、予米國に在りし時、佛國貿易商ウィリアム、ブラウン氏に乞ひて其紹介書を得たりしを以て、今幸ひに佛國の地に足を入るゝを得たりしかバ一度巴里に出でゝ氏に面會せんことを期せしに偶々用便のありとて當府に來られたるを聞きしかバ直ちに其旅館に就て氏を訪へり、

總理「クレマンソー」氏と談話す、

寒暖の禮終りて後ち、予ハ現今及ひ將來に於ける日本の方針ハ如何ある途に採るべきやの語を以て問ひを發せしに氏ハ莞爾として口吻に微笑を含みつゝ曰く、

「日本將來の方針如何」との問ひに對し氏の意見、

日本の東洋列國に卒先して歐米の文明を慕ひ、其善良あるものに就て舊風を改良せんとするの心あるを希ふや久し、而して今幸ひに子の如き者來りて問ふに其針路の如何を以てす焉んぞ喜ひて愚說を陳せざ

第一、

氏はボアソナード氏の日本法典編纂を論ず、

るを得んやと、後ち語を次て曰く、第一、日本は東洋中に卒先して、一足飛びに文化の域に進入せしと雖も尚ほ未た以て歐土に等しき進歩を得たりと謂を得ざるものあり、貴國の進歩い高等社會の一部の進歩にして全社會通じて其歩を進めたりと云ふ能いざるおきか、實に斯くの如く聞けり、日本政府い弊國よりボアソナードと云へる一學生を招き之れに法律なり、民法おりの法典編纂を托し先づ第一にボアソナード之を草案し而して后ち日本人直ちに之を譯し、以て日本の法律とおると云ふか如き事情ありと、予い凡て一國の政權を外人の手に委托する如きい其國体を毀損するものおりと常に主張せり、予い貴國の政府のみならず、民間倶に其両者の擧動い歐化心酔にある如く思意す、是を以て時に其方法の輕卒に出るもの甚た多しと考へり、予い切に日本國の爲に一言を呈せざるを得ざるものあり、是れ他ならず、何國と雖も學者を

氏が外人法官任用に對する意見、

して一國を左右せしむるものおし、學者の說く所是れ一個の學說として看ざるべからず、之を以て政治の方針となすへからず、否之を以て政府の方針と爲すい可なり、然れども只一個の學說に僻すべからず、先づ幾多の學說を徵し之を調和し、之を混化し、幾多の闘議訂說、而して後其採るべきものを採、以て之か政治の道に應用せざるへからさるの二道是れおり、佛國の如き其博士を有する幾萬おるを知らず、然れとも彼等の說い必すしも政治家の採用する所とならざるおり、只之を政略の參考とするに過ぎず、又決して外國人を政府部内に入れ、内閣の施政を左右せしむる如きい何國と雖も同一に之を耻辱とせざるおし、故に學校を設け學術を隆盛おらしめんため海外碩學の士を招き以て是れか教員たらしむるい最も可おり、而して貴國青年者をして有爲の人物たらしむるを得ること將來の最も利益とする所おり、遠く英國アルフレット

第二、大王の時に鑑みる可きあり、又第二に東洋官吏の歐米に來遊するの弊是れあり、如何とあれば彼の高等官吏が歐州各國の言語にも通せずして幾多の小官を從へ、以て市中を行列する如きは唯た歐州人をして一笑せしむるに過ぎざるあり如何ぞ彼等をして我風俗習慣等を諒知せしむるを得んや、是れ東洋政府の方今疲弊するの一源あり、然れども若しも貴國より學徒成業したる書生を留學せしむれば彼れ必ず我歐洲の事情に通するを得ん、然らば則ち他日日本の爲めに稗益するとある可し

第三、内地改良と外交政略と孰れか先んずべき、

凡そ何れの國たるを問はず內治の改良と外交政略と孰れか先んす可きかと云へば予い先づ內治改良を以て答へざるを得ず何んとあれば國家を組織したるものは人民あり人民にして各箇改良して滿足するの心あくして外交に孜々たるは尙は人の空腹にして衣服の美を裝施すると一般其愚も亦甚ざしと云ふ可し自から弊れざらんを欲するも豈に得可けんや、現今尙は日本は諸外國より侮辱を蒙むること甚だし是を以て日本人にして治外法權を撤去せんと欲するは無理あらぬことあり然れども予惟ふに其外面の恥辱よりも尙は甚だしきもの國內にあるべし何そや曰く日本國に於て其人民の意向に反する政府若しあるも轉覆するの政黨あき是れありと尙や其他數時間の會話ありしも今之を記せず、氏には數年前氏を來訪されし我が某伯爵の名を能く記憶し居られたり又氏は朝に立たんよりは野に在るを好むと自ら稱し居られたり、氏か會話は切に予輩をして慷慨振起せしむるの語甚だ多かりしと雖も時に我輩の之を公にするを憚かるものあるを以て之を詳記する能はざるは讀者と共に遺憾に過ぎざるなり」

佛國勞働社會の有樣、

勞働社會の給料は一日四十錢乃至壹圓にして其消費する所も亦同じ、此地は機械場製造場最も盛んありと雖も人民の過多なるに由り其業

務に就事せずして徒手日を消するもの甚だ多し、例へば今壹人の雇夫を雇はんと欲すれば必らず數十人の志願者ありと、其人民の夥しきこと知る可し、然れども斯の如く徒手するものゝ概ねみな、懶怠無賴の徒たるに過きずして、他凡て貴賤の別なく大抵は各業務に從事せり、我か日本の如く婦女子或は過半の士族の徒手する如き有樣ゝ決して彼れに見ざる所なり、我が國の疲弊も茲に源せるあるやも未だ知る可からず、

ルーエン大學教授エム、ジユリアー氏との對話、

國家の進歩は其國人心氣力如何に在り、

予或る時ルーエン大學教授エム、ジユリアー氏の門を叩き詢ふに方今東洋の事情を以てせしに、氏答へて曰く、凡そ何れの國何れの時にても其國の文化進歩の速かなると否とゝ一に人心氣力の如何に存する大なり、夫の「アイデアリヅム」なる志操ゝ一國の大本に於て至大の運命を支配するものあり、斯の志操ゝ是れ即ち人民の氣力なり、人民の氣力ゝ是れ即ち一國の氣力なり、歩を進め、度を高むると否とゝ這般の氣力如何にありて存す。教育の如きゝ是れに次ぎ、干渉保護ゝ尙是れに續ぐ故に予惟ふに方今東洋の進化せさるゝ一に此の氣力あきに歸するあからんかと若し夫れ人民をして斯の志操、此の氣力あらしめば教育の如き益々盛に行れん、此時に當りてゝ政府如何に壓制せんとするも其餘地無る可し、例へば我が佛國の如き專制主義を變して共和政体と爲せしも一に此の氣力有るに依りしなり、是れに由りて之を看る時ゝ方今東洋の急務とすべき處のものゝ宜しく人民の氣力を養成するに在らんと、即ち鈇を分ちて皈れり、

ローエン氏と兵制を談ず、氏が兵制の意見、

予又或時ローエン氏(當時大佐なりき)を訪ひ、談偶々兵事に涉る、氏の曰く、國の安寧を保全せんと欲せば兵制あかる可からず、而して此制に二樣あり、第一常備兵役を半年と定め各適齡者ゝ必らず皆服役せしめ、其

滿期後各業に從事せしむ、且又士官學校を多く設立し、多くの士官を養成し、各群に一ヶ月一度其兵を演習せしめゝば人民にも又政府にも相方の便甚だよく、且つ一朝外國と事あるの日ゝ一國皆兵たらざるゝなしと云ふを得べきなれば、如是くんば唯だ干渉して得たる數十万の常備兵のみあるに勝る所以なり、第二ゝ常備兵の服役を長くし、常に數十万の兵を置く時ゝ經費益々大にして服役者ゝ其業を放棄するに至る者甚だ多き而已あらず、一朝外國と事有るに及びてゝ僅々數十万の外後援なきを以てゝ如何んともす可からず、是れに由りて之を見れば其經費多く人民の業を放棄せしめて國力の衰弱を招くを免れざ、故に此制ゝ早く國外に驅除せざる可からざ、然れども第一の如きゝ國の爲めに甚だ有益なりと雖も官民一致の國に非すんば決して是を實行する能ゝざるか故に方今各國の經費節減及び國の安全を保持せんと欲せゝ官民一致、朝野の調和を計ることこそ最も急務なり、

此地貿易、工業の景況及び予か佛國に於て目擊せし所ろ實に茲に止らず、と雖も或は云ふに忍びざるあり、且つ又一々記する時ゝ冗長に渉るを恐るか故に之を略す、

佛國の形勢を論ず

佛國ゝ古來の歷史上に於ける革命甚だ殘酷にして、以來治亂興亡常あらず、從つて其人心鎭靜あらず其恟々として定趣なきゝ今更予が言を俟たず、其國家の成立右の如きのみあらず、東にゝ獨國の强國あり、東南にゝ瑞西の共和國あり、南にて以太利存し、西南にゝスペイン幷に葡萄牙の二國並立し、北に白耳義幷に和蘭の二國あり西北にゝ强盛なる英國の控ゆるあり、此如く其外面に强敵を有しいるに尙依然として又一旗章を翻へして一歩をも假さず、呼へば應へんとする

の地位に毅然たるを得る所以のもの夫れ何くにかある、予輩か觀察を以てすれゝ、人心の浮氣を利用して外四境に當らしめ、内ゝ其擾々たる現象を料理するの宜しきを得るあるによる、語を更へて之を云へゝ佛國政治家ゝ能く其人心を利用するにあること是れあり、若し之を否らざとせゝ惡んぞ知らん、今日を俟たゞしてポーランドたりしを、

然れと其内部に於ける一般の人心ゝ其宗教上に於て、其道德上に於て最も腐敗を帶べり、古來新教を排擊して舊教を頑信せしより、人心亦偶像の人心とあり、其人倫の何たるを重んせず、强姦、姦通、聞くに忍ひざる臭聞得て之を恥辱とせざるものゝ如し、又退ひて佛國の形勢を視るに其國力の點に於てゝ他の列國と結合の意親しむにあらすんゝ到底活潑ある運動を爲して東洋諸州に跳跨する能ゝざるあり、獨逸の如き、伊太利の如き、英國の如き何れも戈を横へて佛國を睨視せるを以て佛國ゝ是等の列邦に對するの外余力あらざるあり、是を以て彼か東洋に嗾足を伸へんとする如きゝ其内心に於て曾て强からざるあり、是れ只一の虚喝のみ、一の餘威を示さんとするの虚勢のみ東洋に於ける佛國ゝ之を恐るゝに足らざるあり、之を恐るゝに足らざるあり、

然れとも其の最も恐るべきの日ゝ佛國にして其時を得るの日にあり、其時を得るの日とゝ何ぞや、曰く英雄其人を得るの日是あり、佛國の一朝英雄の傑出するあらんか、彼のシャーレマン王の時の如く、奈翁の時の如く一英雄の得るあらゝ、佛國ゝ決して小列國の中に孜々急々たらす、大鵬一飛、歐洲を振動し、其羽翼を千万里外の東洋に張る決して難からざるなり、是れ實に佛國人民ゝ能く政治家の技倆に一

任し、之を信用するの厚きと同時に之が事業を妨くる如きものあきを以て、其人若し英雄の心魂を以て豪傑の事業を企てんとするにゝ佛國を措きて他國に其便を得るを得ざるなり、是亦職として其人民の殖産興業に從事して國財を得、其國力を以て政治家の運動を活潑あらしめ、教育家をも、宗教家をも、其内に於ける運動を自由自在あらしむるの一氣象あるに依るものあれバあり、當國人民の心意ゝ華美あるも亦一事に熱心の性あるを以て一般に「富」を提けて其人に供するの義氣を有すれバあり、蓋し如何なる英雄、豪傑、偉人、冒險者も其費途に苦しむあらバ決して一業一事をも爲し得ざるあれバあり、百尺竿頭此の一片の辞を味ゝ孰れの國孰れの世を問ゝず財力の必用ゝ切なり、財力乏しくゝ其運動を得ず其運動を爲を得ずバ到底敗衂せざらんと欲するも得べからざるを知るに足らん、而して佛國人ゝ能くこゝに警するあるものゝ如し、彼れか今日の位地を毀害せずして數然獨立の旗を輝す所以のものゝ又宗教の力に由れるにあらず、海陸軍の力に由るにあらず、唯たこれ財力の養成に孜々たるに由るあり、佛人ゝ古來より殖産興業を放棄したることあし、製造術を講ずるを廢したることあし、海外貿易に心を用ひざるゝあし、利用厚生の道を忽にせしことなし、彼等か外國と戰端を開き、内外援々たるの日に於ても決して之を忽にしたる事實を見ず、是を以て國力疲弊し、國庫空乏を告ぐるの日に於て尚且幾億万圓の償金を外國に支償して尚亡國の嘆を發せざるもの職として爰に原因せずんバあらざるあり、予豈焉くんぞ佛國の繁盛を怪しまんや、

宇内列國を通看し、米國佛國白耳義等の國力を比較するに米國ゝ其一位にあり、佛國之に次き、白耳義其後たりと雖も其財力の點に於て

立てるゝ各國同一にして只版圖の廣狹に於て此差を來すに過ぎず、人若し之を疑ゝゝ乞ふ航して彼れ等か內勢を看察せよ、予か觀察にして謬りあからんか彼我何れも國家强盛の基因ゝ其財力の如何にあるを思ゝざるべからず、

佛國の人心浮華あるを以て國事多端、內勢擾々たりと雖も尙其國勢の點に於て一歩も他に讓らざるゝ實に財力の大本を忽かにせざるに依る、而して一英主の出てゝ此の人心を利用し一たひ其人望を收攬するあらんか、彼れ決して池中のものにあらざるべし、予輩ゝ今日歐洲の大勢に於て佛國の恐るべきにあらざるを知ると雖も亦之を異日に輕視すべからざるを覺悟せざるべからず、

之を要するに、予輩ゝ國家の富强に就きて敢て宗教の不必要を說くものにあらず又敢て教育の無益を談するものにあらず又敢て兵力の擴張を不可とするものにあらずと雖も宜しく歐洲列邦の今日あるを顧み、其富强の基礎何處にあるを酌量し以て緩急の分別を明かにせられん事を敢て希望に堪へざるあり

英國

英國に渡る、

佛國に在留すること二週間餘、偶々當國人に誘はれて、深く佛國の內地を旅行し其風俗人情等を視察せんと欲し將さに途に登らんとせる時、折しも英國に渡航し得るの機會を得しを以て不本意あから、一方の望みを捨てざるを得ざるに至り遂に其知人に再會を約して、予ゝ英國に向つて發したりき、セーン河より發し之を下りドバ海峽を北に航し

ロンドン府概況、

テムズ河を泝り行く、河上舟楫の往來頻繁にして大小滊船帆船舳艫相術みテムズ河に充滿せり、此河を泝り行くと凡そ二十五里にして世界第一と稱するロンドン府に着す、乃ち上陸して市街を通覽するに厦屋

極めて宏壯にして二層より八九層に至る、市の東西十三哩南北八哩の大都にして方今人口四百二十五万の多きに達せりと云ふ、抑も英國い古來歐洲諸邦に卒先して人民に自主自治を與へ夙に國會を設立し立憲政治の元祖たり、加之宇内商業上の全權を專有して所謂世界の毒虫と云ふに至るの勢力を有するを以て其國の情態を實見せんと欲することと亦切なりき、是を以て予い在英甚だ久しから、ぞと雖も勉めて其狀況を觀察するに怠らざりし左に其概略を記す、

ロンドンい貿易の繁盛事物の殷富宇内に冠たり而して街道馬車の通行絡繹として肩摩轂擊し其雜沓なる實に名狀し難し其寺院病院、製造場、官衙、學校等の盛大宏壯なる觀る者驚かざるなし、殊に繁華雜沓なるいスツレンジ街を以て最とす ロンドン市を區別してテームス河南部を南街とし河北中央より以西を西市とし中央より以東を東市とす而して多くの製造場機械場造船所は南街にありて甚だ美あらぞと雖も亦盛大なり西市は富豪貴人の住居する所にして美麗宏壯なり東市は貿易場百物輻輳の地にして商家羅列し最も錯雜せり故に高架鐵道を設け或は地下鐵道を設け以て人民の交通に便す

予の此地に留まること割合に短時日にして未だ周く市街を知る能はずと雖も勉めて市中を通觀し時としては著明なる勝地靈場に遊べり、

セントポール寺院に遊ぶ

予一日有名なるセントポール寺院に遊ぶ此寺院の形は圓塔にして其高さ三百八十尺其直經百五十尺其内部には柱石多く文飾するに五彩の畫を以てせり實に一奇觀なり

國會議事堂

西市には國會議事院ありテームス河の北岸に瀕して其廣さ方九百尺の大構造なり之を疊むに大理石を以てす且つ數個の高塔を設く其高さ三百四十尺あり議事室は廣大なる一室なれども尚ほ其他數百室を

備へたり是をテームス河の南岸より眺望すれバ巍峨たる高塔屹立し其風景府中第一たり全市街夜間ハ電氣燈及び瓦斯燈を點するを以て輝々たること白晝の如し

「ハイデンハム」に遊ひ水晶宮を見る、

予一日ハイデンハムに遊ぶ此地ハ宏大なる博物館あり是をクリスタル(水晶)宮と名く其長さ六百三十間四方全部皆鉄柱鉄梁を以て造り蔽ふに玻璃を以てす是を遠望する時ハ水晶に彷彿たり故に其名あり其内部を通觀すれバ宇内の奇物珍品悉く是れを網羅し殊に人造の如きハ悉く完備せさるなく有名なる諸寺院宮殿堂樓等を摸造したるが如き實に眞に迫る故に内部を遊歩する時ハ殆と宇内各國を遊行するが如きの感あり。且又繁茂したる草木を植へ池水其間を廻り殊にアイスランドの噴出に摸擬したるハ人巧を極めたりと云ふ可し、且つ春夏秋冬の氣候を區別して各地の草木を植ゆる故に常に繁鬱蒼々として榮を競へり予此に至りて仙境に遊ぶの感ありたり

英國博物館に遊ふ、

予或時ブリチシユミユゼム(英國博物館)に遊ふ、館ハロンドン市の稍々西北部に在りて宇内の万物を網羅し學術美術其他百般の便覽に供せり方今其儲蓄する處の書類ハ積て四十万種以上に至れりと云へり、又古今彫像礦石動物植物等を蒐集せり且人間の体兒獸類の体兒等を乾醋し以て是を蓄藏す大古の羅馬亞細亞埃及印度希臘等の古物を悉く各別室に置き縱覽に供す、予同館中に於てマグナカーターの羊皮に書したるを見る回顧すれハ一千二百十五年英王ジヨン人民の權利を剝奪して其民を塗炭に苦しめし時に當て貴族及ひ人民共に奮起して其生命を犧牲にするとも必ず其權利を恢復せんことを嘆願して止まず此に於て王嘆息して曰く若し人民に權利を與ふれハ吾威權天下に行ハれず然れども若し之を與へざれバ吾生命を保全する能ハず噫朕が進退

同館藏書「マグナカーター」

如何して可あらんかと床に伏して涕泣せり、此時に於て人民の嘆願益々甚だしく王己むを得すして血涙を流しつゝ其權利を人民に還與せんことを約諾せり、是れ即ち英國國會の依て興りし源ありと予始めて此羊皮の書を見て英國人民の剛勇にして其權利自由を貴重するは生命を貴重するよりも甚だしく遂に完備したる今日の立憲制を建立するを得たるは偶然に非らさるを知りたりき、然れども今此書は文字剝滅して理解す可からすと雖も予往時を追懷して大に人民の權利を得んと欲するには猶ほ當時英國人民の如くせすんはあるべからさるを感起せり

テームス河底の隧道、

市の東方テームス河底に於て二條の隧道を穿ち以て其南北両岸の來往に便す且つ此隧道に布設するに鉄道を以てせり故に其通行に於ては甚だ迅速にして且つ輕便あり寓内は日中と雖も尚ほ暗黑あるに依り常に電氣燈を點す照々として宛ら白晝市街を通行するに異あらす、然るに其頭上には數千噸の滊船帆船水を蹶つて來往す實に人工の大奇術と云ふ可きあり抑も此隧道はブラチル氏一千八百二十六年に起工して千八百四十三年に工を竣り爾來各國も亦隧道の築工を始じむ氏も亦一の偉業家にあらずや、地下を飛走するの鉄道を布設して市下を通行し又空中に架設したるの鉄道あり而して其片道價僅かに二ペンス(我五錢位)に過きず、且又市中鉄道馬車の景狀の如きい今悉く記載するを得ず、畢竟するに斯の如く幾多の奇道を布設するい此府人民の巨多あるに比せバ其の市街等猶狹隘あるに起因するが如し

龍動大學校、

龍動大學校ハ市の中央に設置して學生常に千五百人計ありと云ふ而して其教員ハ皆英國有名の道德家及び教育熱心家を以て之を監督せしむ故に學生能く其德義に薫陶せられて卒業の後い社會に立て有益あ

ロンドン女學校、

る事業に從事し大名を天下に博する者甚だ多しと云へり

龍動女學校い常に生徒六百名許あり而して之を監督するにい重もに當國有名なる女教育家を以て之を任し又男子の教育に熱心にして且德望ある者を撰て之を任ず故に我東洋の如く時として醜聞を社會に流布することあるなし是を以て學生皆學成るの後人の婦妻となり上い其國の爲めに盡し下は一家を治め能く其子弟を養育すと云へり其他病院諸學校官局製造所寺院貿易所の如きもの數千の多きに至る故に今一々之を記せず抑も英國は宇内文明の率先者とも云ふべき國なるを以て其學事貿易商工業等も亦宇内の標準として見る可きあり

宗教、

宗教　英國は自由自治の精神を貴尊する故に信仰の自由を與ふると雖も尚ほ怪む可きものあり、即ち此國に於て國教の存在是れなり、抑も當國人にして官吏或は大學校教授或は國會議員區會議員たらんと欲する者は必ず皆其國教を信せずんばある可からずと云ふ如き、是れ實に怪しむ可きものに非ずして何ぞや、而して其國教とは基督教と云ふ、余の如き特に天賦の自由良心信仰の自由を愛貴する者は聊か不快を感せざるに非ざるあり、其他教會組織及ひ其建築法又風習等の如きは米國宗教の現況と格別異なるあるを以て今之を畧す

政体、

政体　君民共治にして其公民の自治自主の主義に委任するをもつて其政度の其國民の心志を束縛せず天賦の良能をして自然に發達せしむ、之を以て政權圓滑にして國内に激烈なる變化を見ず、是れ黨派政治の善良あるに起因するものあり、予茲に感することあり故に君民共治即ち黨派政治の善良あるは以て世界に其比なき所以の理を論述することあるべし

英國歳入、

英國歳入は近時八千六百八十二万七千パウンド（一パウンドは我六圓

位)而して此內貿易稅其歲入の半に過ぐと云ふ以て英國貿易の隆盛なる知る可きなり

國民之性質、

國民の性　英國人は不羈獨立を專一として各其分に安し揚々自得の氣風ありて其國政府を尊信すると雖も又決して之に諂諛せず唯に各自其智識を開達して以て全力を功業に致し事業に勉勵するものゝ如し、故に其性最も沈肅にして果斷の氣象あり其商業技藝文物の盛大にして宇內之を尊敬するの偶然にあらざるを知る可きあり

製產品、

製造品　此國人民の業は鑛山業最も盛ありと雖も木綿其他の製造術に及ぶ者あし特に木綿製造最も盛大にして其組織等皆蒸滊機械を以てせり且其機械の人力に代用する每年八億五千万人に等しと云ふ、然るに各地此製造に從事する者三百万人に上らざと、以て我日本方今の事情と比較せば如何ぞや其他の製造品は實に枚擧するに遑あらざれども之に依て其一般を見る可きなり

外國貿易

外國貿易　英國の貿易の隆盛あるは今更喋々するを要せず、蓋し方今此國商用に使用する所の船舶の數を記載すれば四万八千五百艘其內滊船三万九千艘、帆船九千九百艘、而して之を運轉する水夫の數い三十二万八千人にして其中龍動に滯在する水夫の數三万人ありと、嗚呼、夫れ一府の中に居る水夫の數にても一小市を成すに非ずや其他推して知る可し

新聞雜誌　龍動にて發行するもの其數四百五十六種あり而して其大ある者はタイムス新聞テレグラフ、デーリニユース、スタンドアドと稱して各每日四十五万枚を出版すと云ふ其隆盛ある知る可し

鐵道、

鐵道　方今歐米諸國の電信の迅速且機敏あるは既に米國に於て之を記せしも當國鐵道の縱橫に布設して物品及ひ新聞書簡等の配達の迅